

2009年度

講義計画

桃山学院大学

圖

計

義

讀

科目名 クラス 講義区分	
国際関係論 <秋集>	
松村 昌 廣	4単位

【講義概要】

注意！！
この講義は「原論」のコースです。したがって、極めて哲学的、理論的、理屈詰めの内容となります。社会科学の基礎的な素養がないと、ついてこれない可能性が強いです。動機付けの強い学生向きです。「国際」という名前に迷われないように留意してください。楽しく入門的な内容を希望する学生は、ビデオなどを多用する「国際政治事情研究」の方を履修することをすすめます。

【学習目標】

国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握します。

【講義計画】

- 第1回 1 導入
 - 1) 国際関係論と国際関係における日本
- 第2回 1-2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
- 第3回 1-3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
 - (1) 現実主義 VS 理想主義
- 第4回 1-3) -(2) 伝統主義 VS 科学主義
- 第5回 1-3) -(3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
- 第6回 1-3) -(4) まとめ
- 第7回 2 総論 1) 基本的捉え方 (1) 現実主義
- 第8回 2-1) -(2) 多元主義
- 第9回 2-1) -(3) グローバリズム
- 第10回 2-1) -(4) まとめ
- 第11回 2-2) 分析のレベル (1) 政策決定システム
- 第12回 2-2) -(2) 国家システム
- 第13回 2-2) -(3) 国際システム
- 第14回 2-2) -(3) まとめ
- 第15回 前半の総括
- 第16回 3 各論 1) 軍事的側面 (1) 安全保障
- 第17回 3-1) -(2) 紛争
- 第18回 3-1) -(3) まとめ
- 第19回 3-2) 経済的側面(貿易・金融・投資・技術・開発)(1) 市場機能中心主義
- 第20回 3-2) -(2) 国家機能中心主義
- 第21回 3-2) -(3) 資本形成中心主義
- 第22回 3-2) -(3) まとめ
- 第23回 3-3) 秩序づけのための組織化側面 (1) 国際法
- 第24回 3-3) -(2) 国際機構
- 第25回 3-3) -(3) 国際レジーム
- 第26回 3-3) -(4) まとめ
- 第27回 4-1) 冷戦後の国際構造
- 第28回 4-2) 日本の国際行動とその将来
- 第29回 全体の総括とレポート試験問題の解説
- 第30回 レポート試験の解答

【成績評価の方法】

- レポート 50% 出席 50%
- 1) 出席・受講状態 50%
- 2) 前期試験 20%
- 3) 後期試験 30%
- 4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ)

***冬休みレポート**

参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しない。

***評価の目安**

80~100% A 70~79% B 60~69% C

【教科書】

ポール・R・ビオティ、マーク・V・ウェッセルズ 国際関係論 ー 現実主義・多元主義・グローバリズム 彩流社

【参考文献】

- E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)
- モーゲンソー『国際政治』(福村出版)
- シューマン『国際政治』(東大出版社)

科目名 クラス 講義区分	
国際機構論 <春集>	
軽部 恵子	4単位

【講義概要】

この講義では国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器、貧困、環境など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について知りたい人、国際問題に強くなりいたい人など、意欲的な学生を待っています。

国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎知識を確認しながら講義を進めます。したがって、秋学期に国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論から履修するよう強くすすめます。何らかの都合で国際機構論を先に履修できない人は、世界市民「戦争の世界史」(春学期/秋学期)を履修するか、高校程度の世界史を自分で勉強してください。

国際機構論の前半と国際法の導入部分は似ていますが、両者は全く別の科目です。また、国際機構論の前半は世界市民「戦争の世界史」と似ていますが、大学生としての教養を学ぶ「戦争の世界史」と比べ、国際問題を学ぶ人を対象とした国際機構論は、より専門的な内容になっています。

国際問題に関する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムや外国政府、国連等のホームページも教材として積極的に使用します。

特別テーマの選定には、学生の希望も考慮します。また、国際機関で働く人や外交官をゲスト講師に招くことがあります。

【学習目標】

- (1) 17世紀以降の世界史の流れを理解する。
- (2) 国連の成り立ちと各組織の役割を把握する。
- (3) 国際紛争解決の仕組みを理解し、その功罪を考える。

【講義計画】

- 第1回 国際機構とは何か
- 第2回 国際機構の歴史(1) 宗教改革と三十年戦争
- 第3回 国際機構の歴史(2) フランス革命
- 第4回 国際機構の歴史(3) ナポレオン戦争とウィーン体制
- 第5回 国際機構の歴史(4) ハーグ平和会議
- 第6回 国際機構の歴史(5) 赤十字国際委員会
- 第7回 第一次世界大戦(1) サライェヴォ事件
- 第8回 第一次世界大戦(2) 近代兵器の登場
- 第9回 第一次世界大戦(3) パリ講和会議
- 第10回 国際連盟(1) 国際連盟の目的
- 第11回 国際連盟(2) 国際連盟の問題点①
- 第12回 国際連盟(3) 国際連盟の問題点②
- 第13回 第二次世界大戦(1) ファシズムの台頭
- 第14回 第二次世界大戦(2) 国際連盟の崩壊
- 第15回 第二次世界大戦(3) 国際連合の設立
- 第16回 国連の仕組み(1) 国連憲章①
- 第17回 国連の仕組み(2) 国連憲章②
- 第18回 国連の仕組み(3) 国連総会
- 第19回 国連の仕組み(4) 国連事務総長
- 第20回 国連の仕組み(5) 安保理①
- 第21回 国連の仕組み(6) 安保理②
- 第22回 国連の仕組み(7) 安保理③
- 第23回 国連の仕組み(8) 安保理④
- 第24回 国連の仕組み(9) 国連ホームページ
- 第25回 国連の仕組み(10) 国際司法裁判所
- 第26回 特別テーマ(1)
- 第27回 特別テーマ(2)
- 第28回 特別テーマ(3)

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価に詳しい関係ありません。

【教科書】

成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる凶解世界史』成美堂出版
教科書は毎回講義で使用します。

【参考文献】

※「世界市民：戦争の世界史」(春学期/秋学期)、および「国際法」

(秋学期)のページも見て下さい。

- ・国連広報局編『国際連合の基礎知識』増補改訂第7版 世界の動き社 2006年
- ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連 半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年
- ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 第1巻 2000年／第2巻 2007年
- ・明石康『国際連合：軌跡と展望』岩波書店 2006年
- ・明石康他編著『日本と国連の50年：オールラヒストリー』ミネルヴァ書房 2008年
- ・臼井久和、馬橋憲男編『新しい国連』有信堂高文社 2004年
- ・勝野正恒、二村克彦編『国際公務員をめざす若者へ：先輩からのメッセージ』国際書院 2005年
- ・川鍋道子『国際機関資料検索ガイド』東信堂 2003年
- ・川端清隆『イラク危機はなぜ防げなかったのか：国連外交の六百日』岩波書店 2007年
- ・庄司真理子、宮脇昇編著『グローバル公共政策入門』晃洋書房 2007年
- ・高井晋『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年
- ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年
- ・最上敏樹『国連とアメリカ』岩波書店 2005年
- ・吉田康彦『図解国連のしくみ』日本実業出版社 1995年

【備考】

- ①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②教員作成の印刷物を随時配布しますので、教務課掲示板を常に確認してください。

科目名 クラス 講義区分

国際金融論 <春集>

一ノ瀬 篤

4単位

【講義概要】

「学習目標」を参照。

【学習目標】

為替相場、国際収支、通貨制度などについて、基礎的知識と用語を習得することを目標とする。金融政策、インフレ、海外投資などが重要関連項目なので、これらについても学習することとなる。出来る限り、1回ごとの完結性を目指す。

【講義計画】

- 第1回 円高・円安：為替相場
- 第2回 為替相場と経済
- 第3回 金本位制度①：特質
- 第4回 金本位制度②：歴史
- 第5回 IMF制度①：特質
- 第6回 IMF制度②：歴史
- 第7回 管理通貨制度
- 第8回 変動相場制度
- 第9回 国際収支①：経常収支
- 第10回 国際収支②：資本収支
- 第11回 国際収支の仕分け問題
- 第12回 国際収支と為替相場
- 第13回 為替相場理論①国際収支説
- 第14回 中間試験
- 第15回 為替相場理論②：購買力平価説
- 第16回 銀行間相場と対顧客相場
- 第17回 先物為替取引
- 第18回 利子率平価の話
- 第19回 貿易取引の実際
- 第20回 貿易黒字と海外投資
- 第21回 円の国際化
- 第22回 為替相場と金融政策①：原理
- 第23回 為替相場と金融政策②：実際
- 第24回 日本の対外投資
- 第25回 まとめ①為替相場と通貨制度
- 第26回 まとめ②：国際収支
- 第27回 まとめ③：為替相場理論
- 第28回 まとめ④：先物為替取引 付：デリバティブについて
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%
中間試験と期末試験を均等に評価。また折々の小テストを参考にする。

【教科書】

一ノ瀬作成のレジメにしたがって講義する。

【参考文献】

秦忠夫・本田敬吉『国際金融の仕組み』有斐閣アルマ（最新版が望ましい）

科目名	クラス	講義区分
国際経営論 [2] <秋>		
藤原 照明	2単位	

【講義概要】

金融だけではなく世界の経済は益々グローバル化する現況下、グローバルビジネスや国際経営は実際にどのようなものでどのような行動が現場では取られているのか等、ビジネス現場の様子や日本企業多国籍化の要因と現状に付き理論だけでなく講師の国際経営とビジネスの現場経験や日々変化する国際情勢を交えてその実態を学ぶ。

【学習目標】

教科書は特に指定せず講師作成の資料（パワーポイント）を中心に進め、日々の新聞およびホームページを参考に企業の取る国際戦略を把握・分析することにより、国際経営実態の理解を目指す。

【講義計画】

- 第1回 受講に当たってのオリエンテーション／注意事項
<国際経営序論>
国際ビジネスと国際経営の歴史
- 第2回 日本の経済成長とその基盤
- 第3回 国際ビジネスの推移と規模
- 第4回 <国際ビジネス環境について>
ブレイトンウッズ体制が世界の貿易に与えた影響
- 第5回 EPA/FTAの現状
- 第6回 リスクマネジメント（カントリーリスク）
- 第7回 国際経営における異文化理解の重要性
- 第8回 経済発展と資源確保
- 第9回 <国際経営戦略>
海外直接投資の要因とパターン
- 第10回 直接投資と国際分業（立地優位）
- 第11回 グローバル経営戦略
- 第12回 国際マーケティング
- 第13回 組織と人事
- 第14回 BRIC'sの状況と問題点

【成績評価の方法】

期末テスト、出席及び受講態度

【参考文献】

伊藤元重著『グローバル経済の本質』ダイヤモンド社
久保広正著『貿易入門』日本経済新聞社
根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社
吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス

科目名	クラス	講義区分
国際経済論 <秋集>		
モグベル ザファル	4単位	

【講義概要】

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」（つまり、貿易）に焦点を置きます。あつかうテーマとしては、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などです。

この講義に登場する貿易の現状分析と理論体系は過去250年にわたり次のような問題を提起しつづけてきました。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こるのか、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易のもたらす利益はどのようにして分配されるのか。自由な貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を、現状分析と理論の観点から分りやすく解説します。

【学習目標】

国際経済論の理論体系の基礎について、特に下記の分野について学び理解することを目指す。

1. 国際収支
2. 貿易理論
3. 貿易政策

【講義計画】

- 第1回 国際経済入門：貿易と文明の歩み
- 第2回 国際収支統計の基礎知識
- 第3回 国際収支と対外資産負債残高
- 第4回 国際収支の調整とアプローチ・アプローチ
- 第5回 国際収支の調整と弾力性アプローチ
- 第6回 日本の国際収支の歴史
- 第7回 日本の国際収支の最近の動向
- 第8回 国際収支のまとめ
- 第9回 貿易理論の概要と貿易の「錬金術」
- 第10回 重商主義と絶対優位
- 第11回 特化と分業の限界
- 第12回 自由貿易のメリット・デメリット
- 第13回 保護主義のメリット・デメリット
- 第14回 機会費用と生産可能性フロンティア
- 第15回 オフファー・カーブと交易条件
- 第16回 比較生産費説とリカードの貿易理論 -1
- 第17回 比較生産費説とリカードの貿易理論 -2
- 第18回 ヘクシャー・オリーオン理論
- 第19回 要素賦存と集約度
- 第20回 要素価格均等化定理
- 第21回 ヘクシャー・オリーオン理論とリオンチェフ逆説
- 第22回 貿易理論のまとめ
- 第23回 日本の関税制度：特惠関税と高関税品目
- 第24回 関税効果の分析 -1
- 第25回 関税効果の分析 -2
- 第26回 経済統合と地域主義
- 第27回 多角的貿易体制と自由貿易協定
- 第28回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
出席点は授業中に行う数回の小テストの結果を含む。

【教科書】

澤田 康幸 国際経済学 新世社

科目名 クラス 講義区分	
国際交流特別講義－海外留学事情 01 <春> 国際交流特別講義－海外留学事情 02 <秋>	
野原 康弘	2単位

【講義概要】

桃山学院大学は、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアにいくつもの協定校をもち、そうした協定校への長期留学、各国での短期語学研修、さら日本語教育実習や国際ボランティア活動など多様なプログラムを実施しています。この講義ではこうしたプログラムへの参加を実際に計画している学生のために、外国語の学習法、各国の大学・社会事情、留学・研修の意義、将来の展望など、各国の事情をよくご存知の先生方に順番に講義していただきます。

留学は若い学生諸君にとって特別の体験です。外国語と異文化のなかで苦勞しつつ、しかし日本にいたのでは分からない多くのことを学べます。自分では信じられないほど勉強する機会にもなるでしょう。そんな体験をより多くの学生にしてほしいと思います。そのためにこの講義では、海外留学にかんする学生の漠然とした不安を取り除き、明確な課題を見出すことを目標にしました。

講義の内容と学習目的からもわかるように、主として1年生と2年生に適した科目です。

講義終了時に国際センターのプログラムのいずれかに参加することが望ましい。

【学習目標】

海外の大学事情やその国の文化を理解すること。
留学・研修・国際ボランティアなどの内容を十分に把握すること。
国際センターのプログラムに積極的に参加すること。

【講義計画】

- 第1回 桃山学院大学での留学・研修の可能性について
(ゲスト講師の都合により、各国事情の順番を変更する場合があります。)
- 第2回 英語圏への留学・研修
第3回 英語学習の方法と体験
第4回 イタリア留学・研修
第5回 ドイツ語圏留学・研修
第6回 フランス留学・研修
第7回 スペイン留学・研修
第8回 ロシア留学・研修
第9回 インドネシア留学・研修
第10回 韓国留学・研修
第11回 中国、台湾留学・研修
第12回 国際ボランティア活動
第13回 海外での日本語教育実習
第14回 まとめと期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%
欠席4回以上は単位認定対象外になります。
遅刻に対して厳しく対処します。

【備考】

インテグレーション科目
<04～07生>は読替一覧参照の事。
<04～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
国際交流特別講義－現代ヴェトナム事情 01 <春>	
蓮田 隆志	2単位

【講義概要】

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。扱うトピックは歴史・自然・文化・政治などできるだけ多面的になるように配慮する。

【学習目標】

アオザイや美食など、すっかり日本での知名度が上がったベトナムだが、まだまだ知られていない側面が多い。本講義を通じて、パランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 ベトナムについての基礎知識
第3回 植民地支配と抵抗運動
第4回 ベトナム戦争(1)
第5回 ベトナム戦争(2)
第6回 長い「ベトナム戦争」とドイモイ
第7回 ふたつのデルタ
第8回 環境と生業
第9回 少数民族
第10回 ベトナム共産党
第11回 国家機関
第12回 軍隊
第13回 中央と地方
第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
期末試験およびコメントカード(詳細は初回に説明する)を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

【教科書】

今井昭夫・岩井美佐紀(編著)『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

【備考】

秋学期の同名科目とは重複履修できない。
<04～07生>は読替一覧参照の事。
<04～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
国際交流特別講義－現代ヴェトナム事情 02 <秋>	
蓮田 隆志	2単位

【講義概要】

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。扱うトピックは歴史・自然・文化・政治などできるだけ多面的になるように配慮する。

【学習目標】

アオザイや美食など、すっかり日本での知名度が上がったベトナムだが、まだまだ知られていない側面が多い。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ベトナムについての基礎知識
- 第3回 植民地支配と抵抗運動
- 第4回 ベトナム戦争(1)
- 第5回 ベトナム戦争(2)
- 第6回 長い「ベトナム戦争」とドイモイ
- 第7回 ふたつのデルタ
- 第8回 環境と生業
- 第9回 少数民族
- 第10回 ベトナム共産党
- 第11回 国家機関
- 第12回 軍隊
- 第13回 中央と地方
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 期末試験およびコメントカード(詳細は初回に説明する)を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

【教科書】

今井昭夫・岩井美佐紀(編著)『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

【備考】

春学期の同名科目とは重複履修できない。
 <04～07生>は読替一覧参照の事。
 <04～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
国際社会福祉論 [2] <春>	
大野 順子	2単位

【講義概要】

本講義では国際的な視点から、特に“社会的弱者”に焦点をあて、国内外の福祉に関わる問題を福祉を含めた多様な学問分野から多角的に検討していきます。

【学習目標】

主に開発途上国等における福祉に関わる具体的な問題(例:障がい者問題、貧困問題、人権問題、開発問題等)を取り上げ、その現状や国の政策、官民による支援活動について理解を深め、共生できる国際社会の実現に向けて考える。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国際社会福祉という概念について
- 第3回 世界のマイノリティ(子ども)
- 第4回 世界のマイノリティ(女性、ジェンダー)
- 第5回 世界のマイノリティ(世界の少数民族)
- 第6回 世界のマイノリティ(障がい者)
- 第7回 開発と貧困
- 第8回 教育格差(途上国における初等教育、識字問題)
- 第9回 紛争と難民
- 第10回 多様性とは
- 第11回 社会的弱者の支援(法制度)
- 第12回 社会的弱者の支援(国際機関、政府系機関)
- 第13回 社会的弱者の支援(草の根支援:開発NGO)
- 第14回 まとめ
- 第15回 予備日(本講義に関連した講演及びビデオ等の視聴)

【成績評価の方法】

- ①出席(コメントカードの提出、その内容)
 - ②課題レポート
 - ③期末試験を実施する(成績評価では試験結果を重視する)
- 以上により、総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。
 毎時、テーマに沿ったレジュメ、資料を配布する。

【参考文献】

- 佐藤寛, 青山温子編著『生活と開発』日本評論社, 2005. 9
- 黒田一雄, 横関祐見子編『国際教育開発論 理論と実践』有斐閣, 2005. 4
- 日本平和学会編『グローバル化と社会的「弱者」』早稲田大学出版部 2006. 11
- 国連開発計画(UNDP)『Human Development Report 2006 人間開発報告書2006』2006年
- アマルティアセン(大石りら訳)『貧困の克服』集英社新書 2002

その他、適時紹介します。

か
行

科目名 クラス 講義区分	
国際政治史 <通期>	
鈴木博信	4単位

【講義概要】

国際政治史を「冷戦史」に絞ってとりあげるのが、本講です。「冷戦」というのは、いうまでもなく、第2次大戦がおわった1945年からはじまりソ連が崩壊した1991年をもっておわる、「米ソ両超大国が地球の覇権を競りあったものの、米ソ間の直接の軍事対決だけは全力をあげて避けつづけた“奇妙な大戦争”」にほかならない。したがって、「冷戦」を演じる米ソ両国の一方で、米ソ両国の同盟国や「ひもつき」国のあいだでは「熱い戦争」がほとんど絶えることがなかったのである。

【学習目標】

「冷戦」時代の世界は、どんな仕組みでうごいていたのか？そのさい、国際政治史のうえで第2次大戦後はじめて登場し、国際政治の仕組みを決定的にかえることになった2つの要素①核兵器の登場と②共産中国の登場—は、どんな影響をあたえたか？そうした主題を「ヨーロッパ世界」に重点をおいてあぶり出したい。それによって、ソ連崩壊に圧倒的な「一人勝ち」超大国とみえた合衆国の覇権も急速にかげりはじめている「いまの世界」をみとおす足場にしたい。

【講義計画】

- 第1回 I. はじめに—分析の土台
「民主主義」の興亡
- 第2回 帝国・国民・少数民族
- 第3回 健康体と病身
- 第4回 「資本主義の危機」①
- 第5回 「資本主義の危機」②
- II. 「共通の敵」が消えたとなん、相互不信がもどって対立
- 第6回 第2次大戦とは何だったのか①
- 第7回 第2次大戦とは何だったのか②
- 第8回 核兵器の誕生
- 第9回 ケナンの「封じこめ」理論—西側冷戦戦略の大理論①
- 第10回 トーマン・ドクトリンとマーシャル・プラン
- 第11回 「人民民主主義」の登場
- 第12回 ユーゴスラヴィア破門—ソ連圏にはやくも亀裂
- 第13回 ベルリン封鎖—ドイツ分裂、2つの国家に
- 第14回 朝鮮半島に「熱い戦争」火を噴く—金・毛・スターリンの思惑
- III. フルンチョフの大ばくち
- 第15回 共産圏の御神体「スターリン」を批判
- 第16回 中ソ対立の発生・激化
- 第17回 「キューバのミサイル危機」——世界が息をひそめた13日間
- 第18回 その後のキューバ—2009年1月に建国50年の「革命キューバ」
- IV. 息切れは早くからはじまっていた
- 第19回 「命令経済」のムリをシベリアの油田開発でカバーしていたものの…
- 第20回 「共産党の所有する国家」の福祉制度にはガタがきていた
- V. アメリカはベトナム戦争にのめりこみ
- 第21回 「将棋（ドミノ）倒し」をおそれて——西側冷戦戦略の大理論②
- 第22回 「民主主義の様（さま）がわり」——ヨーロッパの1950～75年
- 第23回 「腕力」だけは追いついた——SALT & MAD
- 第24回 ソ連も「アフガニスタン戦争」にはまり込み
- 第25回 わが道を行く国々、集団生まれる
- VI. 冷戦の幕引き役、続々登場す
- 第26回 先導役は2人のポーランド人—ローマ法王ヨハネ・パウロII世と電気工ワレサ
- 第27回 レーガン、SDI、国際石油価格
- 第28回 ソ連圏「共産主義」崩壊す①
- 第29回 # ②
- VII. だれが勝ったのか、何が勝ったのか？
- 第30回 米国、拡大EU、プーチンのロシア

【成績評価の方法】

- ①定期試験にかわる秋学期末の「大レポート」
——最低2冊以上の文献・資料を使用して、2000字以上。
- ②夏休み前に課す「小レポート」（書評レポート）。

③講義のおわりに随時、提出してもらおう「ミニ・コメント」。
以上を総合して評価する。このうち①が大きな比重をもつのはいうまでもない。

【参考文献】

- ・J・L・ガディス著、河合秀和ら訳「冷戦」（彩流社）、
 - ・松岡完ほか「冷戦史」（同文館出版）、
 - ・アダム・ウラム著、鈴木博信訳「膨脹と共存—ソヴェト外交史」（全3巻、サイマル出版会）
 - ・仲見「パックス・アメリカーナの転回—ジャーナリストのみた現代史」、（岩波書店）
 - ・下斗米伸夫「アジア冷戦史」（中央公論新書）；
- なお、信頼できる年表、歴史事典、歴史地図は歴史をまなぶさいの血液です。ぜひ手元において下さい。

科目名 クラス 講義区分	
国際政治事情研究 <春集>	
松村昌廣	4単位

【講義概要】

政治学、社会学、経済学など、社会科学の基礎をよく理解した、3・4年生を念頭に講義を行う。
この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。
しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。この講義により、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。

【学習目標】

ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。

【講義計画】

- 第1回 国際関係論と地域研究
- 第2回 システム論的アプローチ
- 第3回 比較研究アプローチの危機・・・「理論の高々」
- 第4回 民族紛争(1)
- 第5回 民族紛争(2)
- 第6回 民族紛争(3)
- 第7回 民族紛争(4)
- 第8回 民族紛争(5)
- 第9回 民族紛争(6)
- 第10回 国際テロ・アフガン問題(1)
- 第11回 国際テロ・アフガン問題(2)
- 第12回 国際テロ・アフガン問題(3)
- 第13回 国際テロ・アフガン問題(4)
- 第14回 国際テロ・アフガン問題(5)
- 第15回 北朝鮮(1)
- 第16回 北朝鮮(2)
- 第17回 北朝鮮(3)
- 第18回 北朝鮮(4)
- 第19回 北朝鮮(5)
- 第20回 北朝鮮(6)
- 第21回 中国(1)
- 第22回 中国(2)
- 第23回 中国(3)
- 第24回 中国(4)
- 第25回 中国(5)
- 第26回 中国(6)
- 第27回 日本の経済体制と歴史的経験(1)
- 第28回 日本の経済体制と歴史的経験(2)
- 第29回 日本の経済体制と歴史的経験(3)
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%
Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成
B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける
毎回出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

【教科書】

松村昌廣『激動する米国覇権』現代図書 現代図書

科目名 クラス 講義区分	
国際法 <秋集>	
軽部恵子	4単位

【講義概要】

国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。この講義では国際法の基礎を学びます。
国際法の勉強には世界史の基礎知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、春学期の国際機構論を先に履修するか、春学期または秋学期に世界市民「戦争の世界史」を履修する、あるいは高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。
国際法の導入部分と国際機構論の前半は似ていますが、両者は全く別の科目です。また、大学生としての教養を学ぶ「戦争の世界史」と比べ、国際問題を法律の視点から学ぶ国際法は、より専門的な内容になっています。

国際問題に関する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムやホームページも教材として積極的に使用します。
特別テーマの選定には、学生の希望も考慮します。また、外交官など国際法に関連した仕事をしている人をゲスト講師に招くことがあります。

【学習目標】

- (1) 国際法の重要分野の基礎を理解する。
- (2) 国際法の視点から国際ニュースを考察する習慣を身につける。
- (3) 日常生活の身近な問題にも国際法が関係していることを認識する。

【講義計画】

- 第1回 国際法とは何か
- 第2回 戦争と平和の法(1) 宗教改革と三十年戦争
- 第3回 戦争と平和の法(2) フランス革命とナポレオン戦争
- 第4回 戦争と平和の法(3) ハーグ平和会議
- 第5回 戦争と平和の法(4) 赤十字国際委員会
- 第6回 国際法の重要原則(1) 合意は拘束する
- 第7回 国際法の重要原則(2) 国際法と国際法の関係
- 第8回 国際法の重要原則(3) 国際法と国内法の関係①
- 第9回 国際法の重要原則(4) 国際法と国内法の関係②
- 第10回 国家(1) 国際法上の国家
- 第11回 国家(2) 国家管轄権①
- 第12回 国家(3) 国家管轄権②
- 第13回 国家(4) 国家領域①
- 第14回 国家(5) 国家領域②
- 第15回 国家(6) 国家領域③
- 第16回 国家(7) 国家領域④
- 第17回 国家(8) 国家責任①
- 第18回 国家(9) 国家責任②
- 第19回 国家(10) 国籍
- 第20回 条約(1) 条約案の交渉
- 第21回 条約(2) 署名
- 第22回 条約(3) 批准
- 第23回 条約(4) 効力発生
- 第24回 条約(5) 留保
- 第25回 条約(6) 無効と終了
- 第26回 特別テーマ(1)
- 第27回 特別テーマ(2)
- 第28回 特別テーマ(3)
- 第29回 学期のまとめ(1)
- 第30回 学期のまとめ(2)

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くため、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価にいったい関係ありません。

【教科書】

奥脇直也編集代表『国際条約集2009年版』有斐閣
教科書は毎回講義で使用します。教科書販売期間終了後、出版社で在庫切れになることがあります。条約集は毎年改訂されており、受講生が指定された版や出版社以外の条約集を使用することへの配慮

はありません。

【参考文献】

※「世界市民：戦争の世界史」（春学期/秋学期）、および「国際機構論」（春学期）のページも見て下さい。

- ・国際法学会編『国際関係法辞典』第2版 三省堂 2005年
- ・横田洋三編『国際法入門』第2版 有斐閣 2005年
- ・中谷和弘他著『国際法』有斐閣 2006年
- ・大沼保昭編『資料で読み解く国際法』第2版 全2巻 東信堂 2002年
- ・池上彰『そうだったのか！ニュース世界地図2009』集英社 2008年
- ・池上彰『そうだったのか！アメリカ』ホーム社 2005年
- ・池上彰『そうだったのか！現代史』集英社 2000年
- ・池上彰『そうだったのか！現代史パート2』集英社 2003年
- ・池上彰『そうだったのか！中国』ホーム社 2007年
- ・門奈直樹『現代の戦争報道』岩波書店 2004年
- ・神田文人、小林英夫編『決定版20世紀年表』小学館 2001年
- ・成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる宗教史』成美堂出版 2008年
- ・船本弘毅監修『図説地図とあらすじで読む聖書』青春出版社 2004年
- ・ニック・ヤップ『世界を変えた100日：写真がとらえた歴史の瞬間』日経ナショナル・ジオグラフィック社 2008年

【備考】

- ①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②教員作成の印刷物を随時配布しますので、教務課掲示板を常に確認してください。

科目名 クラス 講義区分

コスト・マネジメント <秋>

坂手 恭介

2単位

【講義概要】

まず、コストマネジメント手法の全体像を把握し、個別手法の理解に進む。マネジメント手法は経営環境、企業組織、市場特性、財務体質などの影響を強く受けるので、これらに対する理解力が求められる。同時に、会計全般の基礎力も必要になるが、トピックごとに簡単な入門的解説を加えて講義を進める。

※受講者は「原価計算システム」の単位を取得しているか、同等の基礎力を有していることが求められる。

【学習目標】

産業社会でのコスト管理問題に対する基礎的理解力を得ることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 コストマネジメントの基礎知識
- 第2回 コストマネジメントと原価計算
- 第3回 標準原価管理①
- 第4回 標準原価管理②
- 第5回 標準原価管理③
- 第6回 CVP分析とコストマネジメント
- 第7回 CVP分析と利益計画
- 第8回 設備投資の経済性計算①
- 第9回 設備投資の経済性計算②
- 第10回 ライフサイクル・コストニング
- 第11回 品質原価計算
- 第12回 ABC・ABM
- 第13回 予算管理①
- 第14回 予算管理②
- 第15回 総合演習（期末テスト）

【成績評価の方法】

試験 100%
期末テストと平常点により評価する。

【教科書】

使用しない。

科目名 クラス 講義区分	
子ども家庭福祉論 A <春>	
福田 公 教	2単位

【講義概要】

子ども家庭福祉論Aでは、子ども家庭福祉が取り組むべき問題の理解を深めるために、児童家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を取り上げる。とりわけ、現代社会の子育てを取り巻く課題、一人親家庭、児童虐待及びDV等の課題をみていく。そのうえで、子ども家庭福祉の歴史的展開や子どもの権利のあり方を概観する。また、ソーシャルワーク援助において必要となる子ども家庭福祉に関わる制度や関連法制度もみていく。

【学習目標】

- ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解できる。
- ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できる。
- ・ 児童の権利について理解できる。
- ・ 相談援助活動において必要な児童家庭福祉制度や児童家庭福祉に係る他の制度について理解できる。

【講義計画】

- 第1回 児童家庭の生活実態と社会情勢 ・ データでみる児童家庭を取り巻く状況
- 第2回 福祉需要の実際 ・ 一人親家庭、児童虐待・DV、子育て支援・青少年育成の状況
- 第3回 児童家庭福祉制度の発展過程 ・ 児童家庭福祉制度の歴史的展開と福祉改革
- 第4回 児童の定義と権利 ・ 児童の定義と児童の権利保障の現状と課題
- 第5回 児童家庭福祉法制Ⅰ ・ 児童福祉法の概要
- 第6回 児童家庭福祉法制Ⅱ ・ 児童虐待防止法・DV防止法の概要
- 第7回 児童家庭福祉法制Ⅲ ・ 母子及び寡婦福祉法・母子保健法・売春防止法の概要
- 第8回 児童家庭福祉法制Ⅳ ・ 児童に関する手当法の概要
- 第9回 児童家庭福祉法制Ⅴ ・ 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
- 第10回 児童家庭福祉法制Ⅵ ・ 児童家庭福祉制度における組織及び団体の役割
- 第11回 児童家庭福祉法制Ⅶ ・ 児童家庭福祉制度における組織及び団体の実際
- 第12回 児童家庭福祉を支える人 ・ 児童家庭福祉制度における専門職の役割と実際
- 第13回 児童家庭福祉に関する地域活動 ・ 地域活動・多職種連携とネットワークの実際
- 第14回 児童相談体制 ・ 児童相談所の役割と実際
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 10% 出席 20%

【教科書】

山縣文治編 よくわかる子ども家庭福祉 ミネルヴァ書房

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
子ども家庭福祉論 B <秋>	
福田 公 教	2単位

【講義概要】

子ども家庭福祉論Bでは、子ども家庭福祉が問題を解決するための社会資源の理解を深めるために、現在の子ども家庭福祉の方向性を明らかにした上で、子ども家庭福祉行政の仕組み、子ども家庭福祉に関わる機関や児童福祉施設を取り上げる。とりわけ、児童相談所を中心とする相談支援体制と児童養護施設を中心とする社会的養護の現状を見ていく。さらに、子ども家庭福祉に関わる機関や施設での援助者や援助技術を概観する。その過程で、子どもと家庭および地域を対象としたサービスの実際等もみていく。

【学習目標】

- ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解できる。
- ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できる。
- ・ 児童の権利について理解できる。
- ・ 相談援助活動において必要な児童家庭福祉制度や児童家庭福祉に係る他の制度について理解できる。

【講義計画】

- 第1回 社会福祉改革からみる子ども家庭福祉
- 第2回 児童福祉六法と関連法規
- 第3回 国・地方の子ども家庭福祉行政
- 第4回 財源と財政の動向、利用者の費用負担の仕組み
- 第5回 児童相談所を中心とする相談機関
- 第6回 児童福祉施設の体系と運営
- 第7回 社会的養護と家庭的養護について
- 第8回 児童福祉施設の展望
- 第9回 子ども家庭福祉サービスの実際①（里親）
- 第10回 子ども家庭福祉サービスの実際②（保育）
- 第11回 子ども家庭福祉サービスの実際③（ひとり親家庭）
- 第12回 子ども家庭福祉サービスの実際④（子どもの虐待）
- 第13回 子ども家庭福祉サービスの実際⑤（障害児福祉）
- 第14回 子ども家庭福祉サービスの実際⑥（少年非行）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 10% 出席 20%

【教科書】

山縣文治編 よくわかる子ども家庭福祉 ミネルヴァ書房

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
コミュニケーション英文法 <春集>	
三宅 亨	4単位

【講義概要】

言葉を用いて聞き手や読み手に自分の伝えたい内容（意味）を表現するには、まず語彙を身につけることが必要である。しかし、いくら語彙が増えても、その使い方を知らなければ日常会話の初歩的な決まり文句程度の片言の域を超えることはできない。いくつもの語を適切につなぎ、正確に意味の伝わる文を作り出す能力（文法力）がなければ自分の言いたいことの半分も言い表せない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解し、使いこなせるようにしなければ、文を読んだり、書いたり、聴いて理解したり、話すことはできない。

この講義では、英語によるコミュニケーションを図る際に求められる統語論を中心に、高校卒業までに身につけた基礎的な英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理しなおし、実際に英語が使えるようにするという実用面と同時に伝統文法から最新の言語理論への橋渡しを試みる。

この科目は英語習得の基礎になるので1年次に履修することが望ましい。

【学習目標】

1. 英語の構造を理解すること。
2. 英語の文法規則を単なる知識ではなく、規則を使って英文を作れる（話す・書く）ようになる。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要（第一回目の授業は必ず出席すること）
英語の基礎学力測定
- 第2回 文(1)
- 第3回 文(2)
- 第4回 文(3)
- 第5回 動詞と文型(1)
- 第6回 動詞と文型(2)
- 第7回 英語の発音：文強勢
- 第8回 時制と相(1)
- 第9回 時制と相(2)
- 第10回 時制と相(3)
- 第11回 時制と相(4)
- 第12回 態(1)
- 第13回 態(2)
- 第14回 話法
- 第15回 復習
- 第16回 助動詞(1)
- 第17回 助動詞(2)
- 第18回 助動詞(3)
- 第19回 助動詞(4)
- 第20回 法と条件文(1)
- 第21回 法と条件文(2)
- 第22回 法と条件文(3)
- 第23回 否定
- 第24回 形容詞(1)
- 第25回 形容詞(2)
- 第26回 副詞(1)
- 第27回 副詞(2)
- 第28回 情報構造
- 第29回 文の構成要素の移動
- 第30回 復習

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%

試験は、学年末の定期試験以外に随時小テストを行う。

出席・遅刻には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の受講を認めない。

【教科書】

毎回プリント(handouts)を配布する。

【参考文献】

教室で、その都度指示する。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
コミュニケーション概論 <春集>	
金本 伊津子	4単位

【講義概要】

“We cannot not communicate!” 私たちは言葉を発していないときも、言葉ならざる言葉で間断なくコミュニケーションを行って他者（物）との関係性を構築する。私達のコミュニケーション行為をとせば、満月の影は「ウサギの餅つき」となり、黒色と白色のコンビネーションは「死・喪」となり、「嫌いだ」という言葉も「好き」になる。

近年、人類はコミュニケーションの技術をすさまじく発達させ、国境や文化を越えて情報を発信・受信できる状況を作った。しかしながら、同時多発テロ事件、イラク戦争などの結果を振り返ると、人類のコミュニケーション能力は、一向に上達していないことがわかる。

この科目においては、人間のコミュニケーション行為を様々な角度から解剖しながら、コミュニケーションの基本的な概念を理解する。

【学習目標】

人間のコミュニケーション行為を分析する過程をとおして、自分のコミュニケーション行為を振り返り、個々のコミュニケーション能力を高めるための基礎固めをすることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 コースの概要
- 第2回 言語の獲得と発達過程(1)：言語使用の生物学的基盤
- 第3回 言語の獲得と発達過程(2)：言語能力の生得性
- 第4回 言語コミュニケーション(1)：言語の構造
- 第5回 言語コミュニケーション(2)：言語と思考様式
- 第6回 言語コミュニケーション(3)：言語と意味
- 第7回 言語コミュニケーション(4)：言外の意味
- 第8回 動物のコミュニケーション(1)：動物行動学
- 第9回 動物のコミュニケーション(2)：人間のコミュニケーションの特徴
- 第10回 非言語コミュニケーション(1)：ノンバーバル・コミュニケーションとは？
- 第11回 非言語コミュニケーション(2)：ノンバーバル・コミュニケーションの生得性
- 第12回 非言語コミュニケーション(3)：ノンバーバル・コミュニケーションの文化差
- 第13回 非言語コミュニケーション(4)：ノンバーバル・コミュニケーションの応用
- 第14回 復習テストにむけての総復習
- 第15回 復習テスト
- 第16回 メッセージの種類と分析
- 第17回 広告のコミュニケーション
- 第18回 広告の記号論的分析
- 第19回 「うわさ話」という現象：都市伝説
- 第20回 メディアがもたらす「うわさ話」
- 第21回 メディア・コミュニケーション
- 第22回 説得の技術(1)
- 第23回 説得の技術(2)
- 第24回 インタビュー、プレゼンテーションの技法
- 第25回 異文化間コミュニケーション(1)：文化コンテクスト
- 第26回 異文化間コミュニケーション(2)：文化相対主義と自文化中心主義
- 第27回 異文化間コミュニケーション(3)：異文化イメージの作られ方
- 第28回 異文化間コミュニケーションの実践
- 第29回 学期末テストに向けての総復習
- 第30回 学期末テスト

【成績評価の方法】

復習テスト 20% 学期末テスト80%

(出席・提出物も参考にして総合的に評価します。)

【教科書】

橋元良明(編著)『コミュニケーション学への招待』大修館書店

【参考文献】

他の参考文献については、授業で紹介する。

【備考】

<02~07生>のみ履修可

【LI生】は学科選択科目、【LE生】は学科自由科目として履修可

科目名 クラス 講義区分	
コミュニケーション論 <通期>	
西川 一 廉	4単位

【講義概要】

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まず自分が自分自身をどのように認知しているかが問題になる。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが、身振り、手振りから始まって顔面表情や視線など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語る場所は奥深い。さらに話すこともさることながら、聞くことの重要性を知らなければならない。また態度変容と説得、ストレスとコミュニケーションなども重要テーマである。当講義では、授業計画にあるような内容について、日常の具体的な出来事を取り上げながら、また各種実習によって自己理解をはかりながら進める。

【学習目標】

当講義は個人、対人文脈、そして集団文脈でのコミュニケーションについて、さらに説得のコミュニケーション、ストレス・健康とコミュニケーションについて心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論、あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。あくまでも心理学に軸足を置いたコミュニケーション論あるいは人間関係論の学習が目標である。

【講義計画】

- 第1回 コミュニケーションとは
- 第2回 コミュニケーション・モデル
- 第3回 知覚とコミュニケーション
- 第4回 コミュニケーションの基礎（自己、過去経験、他者、理性、情緒）
- 第5回 スピーキングとリスニング① 知覚とリスニング
- 第6回 スピーキングとリスニング② リスニング・エラー、スピーキング・エラー
- 第7回 ノンバーバル・コミュニケーション① ノンバーバル・コミュニケーションの用途・分類
- 第8回 ノンバーバル・コミュニケーション② 動作学①顔面表情
- 第9回 ノンバーバル・コミュニケーション③ 動作学②アイコンタクト、姿勢・身振り
- 第10回 ノンバーバル・コミュニケーション④ 近接学（距離、位置）
- 第11回 ノンバーバル・コミュニケーション⑤ パラ言語、人工品
- 第12回 対人文脈におけるコミュニケーション① 社会的役割、社会的対人相互作用の循環過程
- 第13回 対人文脈におけるコミュニケーション② 自己理解と他者理解
- 第14回 対人文脈におけるコミュニケーション③ 交流分析
- 第15回 対人文脈におけるコミュニケーション④ 共感的理解
- 第16回 対人文脈におけるコミュニケーション⑤ 対人魅力
- 第17回 説得とコミュニケーション① 態度の構造、態度変容
- 第18回 説得とコミュニケーション② 説得効果の要因
- 第19回 説得とコミュニケーション③ 説得の過程、説得への抵抗
- 第20回 説得とコミュニケーション④ 説得のテクニック
- 第21回 集団文脈におけるコミュニケーション① 集団とは、集団の形成
- 第22回 集団文脈におけるコミュニケーション② 集団の特質
- 第23回 集団文脈におけるコミュニケーション③ 集団におけるコミュニケーション構造
- 第24回 集団文脈におけるコミュニケーション④ 集団の意思決定
- 第25回 集団文脈におけるコミュニケーション⑤ 集団の葛藤とその解消
- 第26回 ストレス・健康とコミュニケーション① ストレッサーとしてのコミュニケーション
- 第27回 ストレス・健康とコミュニケーション② 調整要因としてのコミュニケーション、ソーシャル・サポート
- 第28回 ストレス・健康とコミュニケーション③ 孤独感、バーンアウト

【成績評価の方法】

試験 100%
成績評価は期末試験による。

【教科書】

西川一廉・小牧一裕 コミュニケーションプロセス 二瓶社

【参考文献】

随時、指示する。

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ会計	01	<春>
コンピュータ会計	02	<春>
池之本 欣 哉	2単位	

【講義概要】

企業、会計事務所では、経理作業にコンピュータを利用する事は、欠かせないものとなっております。この講義では、経理ソフト「弥生会計」を使用しパソコンによる経理実務を学習します。簿記検定3級程度の知識を必要と致します。

なお、平易な説明を心がけますが、理解して頂きます内容が多岐に渡りますので、受講者の前向きな対応を希望致します。

【学習目標】

まずは、受講者が経理ソフトを抵抗なく操作できる事を目指します。次に、経理ソフトの仕組みを説明しながら、簿記の知識を深めていきます。最終的には、簡単な経理実務ができる事を目指します。可能であれば、コンピュータ会計の検定試験を目指したいと思いません。

【講義計画】

- 第1回 企業活動と経営情報
- 第2回 商取引と企業の業務
- 第3回 コンピュータの基礎知識
- 第4回 会計ソフトの基礎知識
- 第5回 帳簿組織と伝票制度
- 第6回 企業業務と会計処理①
- 第7回 企業業務と会計処理②
- 第8回 月次決算業務と会計処理①
- 第9回 月次決算業務と会計処理②
- 第10回 年次決算業務と会計処理
- 第11回 税金と会計処理①
- 第12回 税金と会計処理②
- 第13回 会計データの入力処理と集計
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

期末試験（100点）＋出席点・レポートなど（50点予定）

【教科書】

弥生株式会社 コンピュータ会計 基本 平成21年度版 実教出版株式会社

上記テキストで足りない箇所は、プリント配布を予定しております。

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	01	<春>
コンピュータ利用 I	02	<春>
コンピュータ利用 I	21	<秋>
コンピュータ利用 I	22	<秋>
小 林 利 臣	2単位	

【講義概要】

大学においては、卒業論文を書くにも、講義のレポートを作成するにも、コンピュータの利用が不可欠である。図書館をうまく利用しなければ効果的な学習ができないのと同様に、コンピュータをうまく使いこなせないと実のある大学生活を送ることができない。

就職後も企業においては新入社員はコンピュータは使えると想定している。

未来の社会は（現在も既に）情報化社会であり、コンピュータを使えないと生活にも支障が出てくる。

本講義では、これらの「基礎（情報リテラシと呼ぶ）を形成」すべく講義（座学）に加えて、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるよう実習も行う。

「講義と実習の比率＝50：50」を予定しています（もっと実習が多い方がよいという人は、他の講座か、町のPCショップでお願いします）。

IT（ツール）の実習も総花的でなく、重要Point中心に進めます。

【学習目標】

「情報リテラシ（情報処理作法）」が身に付く。具体的には、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるようになる。

【講義計画】

- 第1回 Windowsの基礎、日本語入力（IME）
- 第2回 Windowsのファイルシステム
- 第3回 Internetの仕組み、WWWを閲覧する
- 第4回 電子メールの仕組み、Webメールで送受信する
- 第5回 ネットワーク、メールを転送する
- 第6回 表計算（Excel）の基本的な事項、集計表を作成する
- 第7回 Excelで複数表・グラフを作成する
- 第8回 Excelのいろいろな機能を使う
- 第9回 Excelでデータベースを作成する
- 第10回 文書作成（Word）の基本的な事項、レポートを作成する
- 第11回 Wordで大きな文書を作成する
- 第12回 PowerPointでプレゼンテーションを作成する
- 第13回 PowerPointでプレゼンテーションを実行する
- 第14回 総合まとめ
- 第15回 期末試験（講義内）

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 60% 出席 0%

講義時の課題レポート、および期末試験（テキスト・ノート持ち込み可）で、評価する。

上記は比率配分は目安です。詳細は講義内で説明します。

【教科書】

桃山学院大学情報センター編 ユーザーズガイド

【参考文献】

特になし。

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	03	<春>
コンピュータ利用 I	04	<春>
コンピュータ利用 I	05	<春>
コンピュータ利用 I	23	<秋>
コンピュータ利用 I	24	<秋>
コンピュータ利用 I	25	<秋>
竹 岡 志 朗	2 単位	

【講義概要】

現在、職場から日常生活、そして趣味や娯楽の場面まで、いたる所でPCが利用されている。そしてPCの利用場面が拡張するにしたがって、使えることが当然のものとなされ、必要とされるスキルの幅は広がりつつある。この講義では、その中でも必須のものとして扱われているオフィスアプリケーションの操作について説明と実習を行う。

【学習目標】

本講では、オフィスアプリケーションの操作に慣れ、中級レベルのスキルを身につけることを目的とする。

【講義計画】

- 第1回 講義概要と授業計画の説明
- 第2回 インターネットとEメール
- 第3回 Word①
- 第4回 Word②
- 第5回 Excel①
- 第6回 Excel②
- 第7回 Excel③
- 第8回 Excel④
- 第9回 Excel応用
- 第10回 Power Point
- 第11回 オフィスアプリケーション応用①
- 第12回 オフィスアプリケーション応用②
- 第13回 オフィスアプリケーション応用③
- 第14回 オフィスアプリケーション応用④

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 50% 出席 30%

【教科書】

テキストは桃山学院ユーザーズガイドを使用する

【参考文献】

コンピュータを使わない情報教育 アンブラグドコンピュータサイエンス
Bell, t. 著 兼宗 進 監訳
イーテキスト研究所

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	06	<春>
コンピュータ利用 I	07	<春>
コンピュータ利用 I	08	<春>
コンピュータ利用 I	19	<春>
コンピュータ利用 I	20	<春>
コンピュータ利用 I	26	<秋>
コンピュータ利用 I	27	<秋>
コンピュータ利用 I	28	<秋>
コンピュータ利用 I	37	<秋>
コンピュータ利用 I	38	<秋>
田 村 剛	2 単位	

【講義概要】

一昔前であれば、ビジネスなどにおいて、コンピュータを利用できる人間はある程度重宝されたものであるが、最近ではコンピュータの発達に伴い、利用できて当たり前であり、逆にできなければ困るという状況になってきている。

本講義では、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本操作について学習する。

【学習目標】

本講義では、レベルアップを図るとともに、特にコンピュータをほとんど使った経験のない初心者を対象として、コンピュータの基礎を身につけることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コンピューターの基本操作とキーボードの使い方
- 第3回 入力の練習
- 第4回 インターネットのネチケットとセキュリティ
- 第5回 インターネットによる情報検索
- 第6回 電子メールの利用
- 第7回 ワードプロソフト (Word) の基本操作1 (文章作成・編集など)
- 第8回 ワードプロソフト (Word) の基本操作2 (文章作成・編集など)
- 第9回 ワードプロソフト (Word) の基本操作3 (練習問題)
- 第10回 表計算ソフト (Excel) の基本操作1 (データ入力と編集)
- 第11回 表計算ソフト (Excel) の基本操作2 (図表の作成)
- 第12回 表計算ソフト (Excel) の基本操作3 (データの検索と並び替え)
- 第13回 表計算ソフト (Excel) の基本操作4 (練習問題)
- 第14回 プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作1 (スライド作成)
- 第15回 プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作2 (練習問題)

【成績評価の方法】

出席状況や課題の出来具合等を考慮して総合的に評価する

【教科書】

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

【参考文献】

特になし

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	09	<春>
コンピュータ利用 I	10	<春>
コンピュータ利用 I	11	<春>
コンピュータ利用 I	12	<春>
コンピュータ利用 I	29	<秋>
コンピュータ利用 I	30	<秋>
初瀬 慎一	2単位	

【講義概要】

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおいての必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

【学習目標】

パソコン実習を通じ、3層構造の情報リテラシーのうち情報基礎リテラシー、PCリテラシー(PC活用能力)について理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
情報リテラシーとメディアリテラシー
- 第2回 インターネットとセキュリティ
- 第3回 オフィスソフト 表計算
- 第4回 オフィスソフト 表計算
- 第5回 オフィスソフト 表計算
- 第6回 オフィスソフト 関数 基本
- 第7回 オフィスソフト 関数 応用
- 第8回 オフィスソフト データベース機能
- 第9回 オフィスソフト データベース機能
- 第10回 オフィスソフト ワープロ
- 第11回 オフィスソフト ワープロ
- 第12回 オフィスソフト ワープロ
- 第13回 オフィスソフト ワープロ
- 第14回 オフィスソフト プレゼンテーション
- 第15回 まとめ 試験・課題演習

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 30% 出席 40%
出席・遅刻状況に加え授業への参加態度及び試験により総合的に評価する。
出席・遅刻状況は、実習室に備え付けられた端末への、Login Timeを基に集計を行う。
集計の際に、授業開始時刻を30分以上経過したものは欠席扱いとする、また度重なる遅刻については欠席とみなす場合もあるので注意されたい。
なお、成績評価は、授業日数の3分の2以上の出席であり、加えて試験成績により実施する。

【参考文献】

情報センター利用ガイド

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	13	<春>
コンピュータ利用 I	14	<春>
コンピュータ利用 I	15	<春>
コンピュータ利用 I	31	<秋>
コンピュータ利用 I	32	<秋>
コンピュータ利用 I	33	<秋>
加島 智子	2単位	

【講義概要】

本講義では、タイピング、文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネット、メールを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶ。

【学習目標】

本講義では、日常生活でコンピュータやインターネットを利用して課題を解決するための基礎的な知識や技能を学ぶ。単に文字入力や基本的な操作方法、データや情報の処理方法を学ぶだけでなく、コンピュータの基礎的な動作原理や特性、適用場面の理解を深めた上で、目的に応じて使いこなすことを目的とする。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Windowsの基本操作、文字入力
- 第3回 ファイルの管理
- 第4回 メール、インターネット(情報検索)
- 第5回 エクセル(基本操作)
- 第6回 エクセル 関数の利用(合計、平均、条件)
- 第7回 エクセル 関数の利用(ランク、最大、最小、絶対参照など)
- 第8回 エクセル 並び替え、グラフ、オートフィルタ、練習
- 第9回 ワード(基本操作)
- 第10回 ワード タイピングテスト、案内文作成
- 第11回 ワード ビジネス文章作成
- 第12回 パワーポイント(基本操作)
- 第13回 パワーポイント 練習
- 第14回 まとめ
- 第15回 最終課題

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の演習と各回の課題・期末課題などとする。出席は必ずしてください。

【教科書】

桃山学院大学情報センター ユーザーズガイド2009

【参考文献】

村井 純(著)、インターネット、単行本、岩波新書(1995/12)。
エクスメディア(著)、超図解mini Word基本操作&テクニック、単行本、エクスメディア(2005/6/15)。
エクスメディア(著)、超図解mini Excel基本操作&テクニック、単行本、エクスメディア(2006/4/5)。

【備考】

この授業は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者の学生を対象としています。コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈なだけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 I	16	<春>
コンピュータ利用 I	17	<春>
コンピュータ利用 I	18	<春>
コンピュータ利用 I	34	<秋>
コンピュータ利用 I	35	<秋>
コンピュータ利用 I	36	<秋>
武本和広		2単位

【講義概要】

近年のインターネットの普及と、Windows搭載コンピュータの低価格化は著しい物があります。このため、情報の検索・取得、加工・保存、提示・発信を目的とした、道具としてのコンピュータ利用が必要不可欠となっています。この講義では、「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生さんを対象に、上記のために「最低限必要な」知識とスキルを取得する事を目標とし、そのための準備を整えます。

なお、この授業は「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生を対象としています。コンピュータ利用に長けた学生さんの受講は、退屈極まる物になるかと思っておりますのでご遠慮ください。

【学習目標】

具体的には、コンピュータの構成・概念とその基礎的操作を理解し、その為の情報の取得、電子メールの送受信、取得した情報の処理と可視化、第三者へ提示する為の情報の加工を、実行できるようにする事を目標とします。これらのための道具である、Webブラウザ、電子メール、オフィススイート（文書作成・表計算・プレゼンテーション）のソフトウェアの扱い方を知って貰います（特定の製品の扱い方について深く掘り下げるわけではありません）。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス、コンピュータ操作の基礎
- 第2回 コンピュータの構成・概念
- 第3回 電子メールを使った情報の送受信
- 第4回 WWWを閲覧する
- 第5回 表計算ソフトの基本的な使い方-1
- 第6回 表計算ソフトの基本的な使い方-2
- 第7回 表計算ソフトを基本的な使い方-3
- 第8回 プレゼンテーションソフトの基本的な使い方-1
- 第9回 プレゼンテーションソフトの基本的な使い方-2
- 第10回 文書作成ソフトの基本的な使い方-1
- 第11回 文書作成ソフトの基本的な使い方-2
- 第12回 オフィスソフトのその他の使い方
- 第13回 インターネットとの付き合い方
- 第14回 予備日

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%
出席を重視した、数回の課題・レポートによる総合評価

【教科書】

桃山学院大学情報センター（編）ユーザーズガイド2009

【備考】

コンピュータ利用の初心者・未経験者を対象としますので、初心者以上の方の受講は、ご遠慮下さい。

科目名	クラス	講義区分
コンピュータ利用 II <秋集>		
初瀬慎一	4単位	

【講義概要】

HTML、Java言語を中心とした実習を通して、インターネット時代のコンピュータ利用技術を身につける。

【学習目標】

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行おう。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

- ・情報センターの施設を用いた講義と実習が主体となる。
- ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピューターにある程度慣れていないとハードな講義となる。
- ・少なくない自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。
- ・基本的には連絡は電子メールで行う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
(具体的な計画は下欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもある。)
- 第2回 インターネットの歴史1
- 第3回 インターネットの歴史2 暗号化技術
- 第4回 情報検索
- 第5回 HTML 1
- 第6回 HTML 2
- 第7回 HTML 3
- 第8回 HTMLとCSS 1
- 第9回 HTMLとCSS 2
- 第10回 Javaとは何
- 第11回 Java概要
- 第12回 10日でわかるJava 第1日
- 第13回 10日でわかるJava 第2日
- 第14回 10日でわかるJava 第3日
- 第15回 10日でわかるJava 第4日
- 第16回 10日でわかるJava 第5日の1
- 第17回 10日でわかるJava 第5日の2
- 第18回 10日でわかるJava 第6日 GUI 1
- 第19回 10日でわかるJava 第7日 GUI 2
- 第20回 10日でわかるJava 第8日 GUI 3
- 第21回 10日でわかるJava 第8日 GUI 4
- 第22回 10日でわかるJava 第9日
- 第23回 10日でわかるJava 第10日 アプレット1
- 第24回 10日でわかるJava 第10日 アプレット2
- 第25回 まとめ
- 第26回 まとめ
- 第27回 総合演習
- 第28回 総合演習
- 第29回 課題作成
- 第30回 課題作成

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%
実習の提出物を中心に総合的に評価する。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

丸の内とら 10日でおぼえるJava入門教室 第二版 翔泳社

【参考文献】

ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ
改訂新版 初体験Java 丸の内とら著 技術評論社

科目名 クラス 講義区分	
コンピュータ論 <秋集>	
藤 間 真	4単位

【講義概要】

今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具になりつつある。

何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことをコンピュータの発達の歴史、ハードウェア装置の構成と仕組み、そしてソフトウェアの現状と可能性を理解することで、明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。

なお、秋学期配当科目であることも手伝い、講義計画入稿段階(2008年12月)では未定の部分がある。決定し次第担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) にて公示する予定であるから、受講を検討している諸君には、そちらをも確認することを望む。

【学習目標】

本講の目的は、教科「情報」の教職免許状取得希望者を中心に、経済学部 経済と情報コースの学生に、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、深い考察のきっかけを与えることである。

【講義計画】

- 第1回 第一回にオリエンテーションを行います。
第一回及び第二回で、講義の内容に関する重要なことを扱いますので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなります。受講を検討している諸君は必ず出席してください。
なお、高校での教科『情報』の教育が多様化していることを受け、受講生の理解度を頻繁に測り、内容及び進度の調整を行います。その結果、下記の予定に変更がある可能性は高いです。詳細は、講義中にアナウンスします。
- オリエンテーション・思考と機械
- 第2回 思考と機械
第3回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第4回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第5回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第6回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第7回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第8回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第9回 ハードウェア装置の構成と仕組み
第10回 中間まとめ
第11回 ソフトウェアの構成と仕組み
第12回 ソフトウェアの構成と仕組み
第13回 ソフトウェアの構成と仕組み
第14回 ソフトウェアの構成と仕組み
第15回 ソフトウェアの構成と仕組み
第16回 中間まとめ
第17回 コンピュータの発達の歴史
第18回 コンピュータの発達の歴史
第19回 コンピュータの発達の歴史
第20回 コンピュータの発達の歴史
第21回 コンピュータの発達の歴史
第22回 中間まとめ
第23回 社会におけるコンピュータ
第24回 社会におけるコンピュータ
第25回 社会におけるコンピュータ
第26回 社会におけるコンピュータ
第27回 社会におけるコンピュータ
第28回 総まとめ
第29回 総まとめ
第30回 試験

【成績評価の方法】

いくつかの課題に関して、試験及びレポートを課します。

試験であることの補正を行った上で、各課題毎の点数の高い方を使って評価します。

詳細は、オリエンテーション時に説明します。

科目名 クラス 講義区分	
財政学 <春集>	
竹 原 憲 雄	4単位

【講義概要】

財政はその国の政治経済社会の現状を映し出す鏡です。日本の財政も例外ではありません。

サブプライムローンに始まる世界的な金融不況と日本経済の急速な景気後退のなかで、日本の財政赤字はさらにその深刻さを増してきています。2008年度末の国債残高は過去最大の581兆円、これは国の税収の13年分、国民1人当りの負担は456万円。この借金の山を前に所得税や消費税の増税が準備されています。

同時に、少子高齢化や経済格差の拡大のなかで、社会的なセーフティネットのほころびをつくらうために、福祉や雇用、経済対策への財政出動が求められています。さらに食糧やエネルギーを確保し、地球環境の改善のためには、発展途上国に対する政府開発援助も考えなければいけません。

もっともこうした日本の財政が単なる興味の対象に終わってしまうならば、その本当の姿は分かりません。財政のしくみや経済活動との関係などについて、順序だてて考えてみる必要があります。

そのために2009年度の予算を手がかりにしながら、現在の財政がかかえている問題点、国民生活への影響、そして今後のあり方など日本財政の実体に迫ってみようというのが、この講義のねらいです。

【学習目標】

財政の基本的な理論と日本財政の概要・特質・問題点の把握・修得を通して、財政の社会経済的な意義や役割、日本の税財政政策や改革論議に対する理解力・批判力を高めることを目標にしています。

【講義計画】

- 第1回 : ガイダンス
第2回 1. 2009年度予算の内容と問題点
予算の意義と予算制度(1)
第3回 予算の意義と予算制度(2)
第4回 2009年度予算の政治経済環境・概要・特質(1)
第5回 2009年度予算の政治経済環境・概要・特質(2)
第6回 財政赤字の問題点と欧米諸国の財政再建策
第7回 2. 現代財政の理論と機能
財政の意義と規模
第8回 現代財政の機能と問題点(1)
第9回 現代財政の機能と問題点(2)
第10回 現代の財政理論の概要と評価(1)
第11回 現代の財政理論の概要と評価(2)
第12回 3. 日本財政の経費構造と主要経費の実態
経費の基礎理論
第13回 経費の経済効果
第14回 日本財政の経費の内容と動向(1)
第15回 日本財政の経費の内容と動向(2)
第16回 社会保障費と年金制度(1)
第17回 社会保障費と年金制度(2)
第18回 公共事業費の実態
第19回 政府開発援助の現状
第20回 4. 税金の意義としくみ
税金の特質・根拠・負担(1)
税金の特質・根拠・負担(2)
第21回 所得税のしくみと問題点
第22回 消費税の特質・課題・改革構想
第23回 5. 国債の現状と課題
国債の意義・発行・消化と減債制度(1)
第24回 国債の意義・発行・消化と減債制度(2)
第25回 国債の膨張と問題点
第26回 6. 財政投融资の機能と新たな展開
財政投融资の構造
第27回 財政投融资改革の評価
第28回 試験
第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 75% レポート 20% 出席 5%

【教科書】

使用しない

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

【備考】

講義内容については、新たなテーマを加えるなど必要に応じて変更する場合がある。

科目名 クラス 講義区分	
財務諸表論 <春集>	
全 在 紋	4 単位

【講義概要】

企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっています。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される企業の「証言」と言えましょう。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われます。

【学習目標】

- (1) 1年次における「商業簿記」および「会計学基礎」の学習内容を前提にして、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書のポイントを学習します。
- (2) 「企業の言語」としての〈会計〉の特性を学習します。

【講義計画】

- 第1回 この科目のオリエンテーション
- 第2回 会計の意義と分類：その①
- 第3回 会計の意義と分類：その②
- 第4回 株式会社の決算法：その①
- 第5回 株式会社の決算法：その②
- 第6回 3種基本財務諸表：その①
- 第7回 3種基本財務諸表：その②
- 第8回 3種基本財務諸表：その③
- 第9回 3種基本財務諸表：その④
- 第10回 収益性の経営分析：その①
- 第11回 収益性の経営分析：その②
- 第12回 収益性の経営分析：その③
- 第13回 収益性の経営分析：その④
- 第14回 成長性の経営分析：その①
- 第15回 成長性の経営分析：その②
- 第16回 安全性の経営分析：その①
- 第17回 安全性の経営分析：その②
- 第18回 安全性の経営分析：その③
- 第19回 資金面の経営分析：その①
- 第20回 資金面の経営分析：その②
- 第21回 資金面の経営分析：その③
- 第22回 経営分析のまとめと総復習
- 第23回 会計は企業の言語：その①
- 第24回 会計は企業の言語：その②
- 第25回 国際会計論の解明：その①
- 第26回 国際会計論の解明：その②
- 第27回 国際会計論の解明：その③
- 第28回 この科目のまとめ（総括）

【成績評価の方法】

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価します。また、授業中の質疑応答における正答者にはボーナス・カードを支給し、その枚数によっても加点評価します。さらに、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者にも加点評価します。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価します。

【教科書】

全在紋作成のオリジナル・テキスト配布（分売）の予定

【参考文献】

全在紋著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

【備考】

この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科目名 クラス 講義区分	
産業考古学 <通期>	
辻 洋一郎	4 単位

【講義概要】

産業考古学は、産業の歴史のなかで生まれ、活用され、そして消費されていった生産財・消費財を、歴史、文化、経済、地理などの各分野の観点から調べ・考えることでその思想を知る学問です。すなわち、既存の学問（産業史、技術史、経済史など）の方法論に準拠して展開される学際的な分野といえます。また、消えてゆきつつある産業遺産をどのように選別・収集・保存・活用するか、という実務的な問題も重要な論点で、博物館学の方法論や知識を駆使する必要があります。本講義では、実際の産業遺産を概観しながら、歴史的な意味や役割について考察してゆきます。

【学習目標】

今年度の講義では、前半で産業考古学の目的と現状を解説した後、産業考古学を理解するために必要不可欠な周辺の学問分野を概観します。後半では、産業遺産保護の現状と問題点に焦点を当てて解説します。

下記の授業計画は、順不同で行います。また、この内容以外にも、受講生に必要なと思われる事項について適宜教授します。

【講義計画】

- 第1回 産業考古学の目的と定義
- 第2回 産業発展の歴史－明治期以前
- 第3回 産業発展の歴史－明治期
- 第4回 産業発展の歴史－大正～昭和
- 第5回 産業構造と産業の進歩
- 第6回 技術進歩と産業の発展
- 第7回 産業遺産の俯瞰－その1
- 第8回 産業遺産の俯瞰－その2
- 第9回 産業遺産の俯瞰－その3
- 第10回 産業遺産の俯瞰－その4
- 第11回 産業遺産の俯瞰－その5
- 第12回 産業遺産の俯瞰－その6
- 第13回 産業遺産の俯瞰－その7
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 産業遺産の俯瞰－その8
- 第16回 産業遺産の俯瞰－その9
- 第17回 産業遺産の俯瞰－その10
- 第18回 産業遺産の俯瞰－その11
- 第19回 産業遺産の俯瞰－その12
- 第20回 産業遺産保護の目的と現状
- 第21回 周辺学問分野の概要
- 第22回 周辺学問分野と産業考古学のかかわり
- 第23回 日本の産業遺産保護の現状－その1
- 第24回 日本の産業遺産保護の現状－その2
- 第25回 産業考古学の将来と問題点
- 第26回 各国の産業遺産保護の現状1
- 第27回 各国の産業遺産保護の現状2
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%

【参考文献】

講義中に指示します。

科目名 クラス 講義区分	
産業構造論Ⅰ <春>	
義 永 忠 一	2単位

【講義概要】

現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。
産業構造論Ⅰ<春>は、「産業構造の変化と大阪経済の現状」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。

【学習目標】

講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。

【講義計画】

- 第1回 2008年度 講義実施内容（2009年度に変更の可能性あり）
オリエンテーション・この講義の狙い
「産業構造の変化と大阪経済の現状」
- 第2回 産業構造論とは
- 第3回 地方行・財政の現状
- 第4回 地方行・財政と公共交通事業
- 第5回 環境問題とフードマイレージ
- 第6回 関西における「食」文化 第1回
- 第7回 関西における「食」文化 第2回
- 第8回 関西における外食産業の現状
- 第9回 関西におけるホテル・観光業
- 第10回 シンクタンク・ビジネス
- 第11回 新産業創出の為の試み
- 第12回 新産業創出の現状 東大阪の場合
- 第13回 新産業創出の現状 大阪市のロボット産業
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 100%
講義期間を数期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。それらを総合して評価します。

【参考文献】

その都度指示します。

【備考】

第1回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
<02~07生>は読替一覧参照の事。
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
産業構造論Ⅱ <秋>	
義 永 忠 一	2単位

【講義概要】

現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。
産業構造論Ⅱ<秋>は、「グローバル化と産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。

【学習目標】

講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。

【講義計画】

- 第1回 2008年度 講義実施内容（2009年度に変更の可能性あり）
グローバル化と産業構造の変化
- 第2回 エネルギー自由化（ガス）
- 第3回 エネルギー自由化（電力）
- 第4回 日本における貿易の現状
- 第5回 知的財産権
- 第6回 繊維産業の現状
- 第7回 自動車産業の現状
- 第8回 輸出型中小企業の現状
—大阪における2008年実態調査から—
- 第9回 情報産業
- 第10回 金型産業の現状と課題1
- 第11回 金型産業の現状と課題2
- 第12回 環境に対する視点
- 第13回 産業構造の変化とサブカルチャー
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 100%
講義期間を数期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。それらを総合して評価します。

【参考文献】

その都度指示します。

【備考】

第1回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
<02~07生>は読替一覧参照の事。
インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
産業社会学 <春集>		
上 田 修	4単位	

【講義概要】

私たちの暮らしを支える経済社会、なかでもその中心に位置する雇用のあり方は、近年、大きく変化しています。それを象徴するのが、成果主義の導入、雇用の多様化、さらにはグローバルスタンダードにもとづく企業統治の再編です。この授業では、学習目標に示すように講義内容を企業と社会をめぐる問題というように大きく2つのパートに分け、それぞれの問題について考えます。

【学習目標】

講義概要で述べたようにこの授業では授業内容を大きく2つのパートに分け、以下の点について理解を図ります。最初のパートでは、まず①企業というものを組織という視点から捉え、次いで②企業活動の基底にある労働の管理、モチベーションといった労働をめぐるミクロの問題がこれまでどのように処理、理解されてきたのかを取りあげ、それをふまえた上で、③日本企業における人々の働き方、管理の特徴を学びます。2つ目のパートでは、視点を社会へと大きく広げ、産業社会の問題として④競争、平等、格差をキーワードとして、日本社会が抱える問題を考察し、最後に⑤働く者の権利擁護に関して労働組合を取りあげます。

【講義計画】

- 第1回 はじめに 授業計画と課題について
- 第2回 企業とは何か
- 第3回 日本企業の諸相
- 第4回 日本企業の組織的特徴
- 第5回 管理論の史的形成
- 第6回 自己実現的人間観と行動科学
- 第7回 リーダーシップ
- 第8回 戦前型年功制度の形成
- 第9回 戦後型年功制とその修正
- 第10回 職能資格制度
- 第11回 成果主義(1)
- 第12回 成果主義(2)
- 第13回 日本の生産システムとチーム労働(1)
- 第14回 日本の生産システムとチーム労働(2)
- 第15回 過度労働と長時間労働
- 第16回 過労死問題
- 第17回 競争社会の断面(1) 理論的検討
- 第18回 競争社会の断面(2) 日本企業の競争構造
- 第19回 階級論と階層論 SSM調査を中心として
- 第20回 平等社会日本とその変容
- 第21回 非正規雇用の増大と若者の受難(1)
- 第22回 非正規雇用の増大と若者の受難(2)
- 第23回 働く女性の増大と格差問題(1)
- 第24回 働く女性の増大と格差問題(2)
- 第25回 日本の労働組合の特徴
- 第26回 日本の現状と労使関係の将来
- 第27回 雇用の変容と働く者の将来
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
成績は、学期末テスト(80%)、出席および授業時にかすレポート(20%)で評価します。

【教科書】

テキストは使用しません。ただし、講義内容の概略(レジュメ)を配布します。

【参考文献】

レジュメにて指示します。

科目名	クラス	講義区分
産業心理学 <通期>		
西 川 一 廉	4単位	

【講義概要】

バブル経済崩壊後、産業社会、特に働く人々にとっての職場環境は大きく変わった。それはその後の景気回復傾向においても同様であった。それどころかこのたび突然に発生した世界規模の経済異変によって職場環境は一層の悪化傾向にある。不安定雇用をはじめ、多様化した労働形態など勤労者を取り巻く環境は見通しがつかない状況にある。

そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、勤労者の生活は職場(会社)を中心に営まれる。しかしそこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化など激変する産業社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、労働時間、パートタイマーやフリーターあるいは派遣労働者などのいわゆる非正規雇用、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。法的整備だけで事足りるのか。心の問題はそれほど簡単ではない。当講義では各種調査結果や今日的出来事を例示しながら、心理学的側面から考える。

【学習目標】

当講義では、講義概要に述べたようにダイナミックに変化する労働環境と、そこで働く人々について心理学の立場から考える。すなわち、いわゆる産業・組織心理学的諸問題についての学習が目標である。

【講義計画】

- 第1回 産業心理学とは
- 第2回 産業心理学の誕生
- 第3回 産業心理学の発展とその展開(科学的管理法、ホーソン研究)
- 第4回 勤労者の生きがい・働きがい① 豊かさや労働意識の変化
- 第5回 勤労者の生きがい・働きがい② 職務満足と生活の満足
- 第6回 勤労者の生きがい・働きがい③ 勤労者のライフスタイル
- 第7回 労働時間構造の変化と労働意識① 労働時間の現状
- 第8回 労働時間構造の変化と労働意識② 労働と余暇
- 第9回 労働時間構造の変化と労働意識③ 労働時間短縮と労働意識
- 第10回 女性労働・家族・企業社会① 女性労働の特徴
- 第11回 女性労働・家族・企業社会② 女性と管理職昇進
- 第12回 女性労働・家族・企業社会③ 生活時間に見る家族
- 第13回 働く意欲と職務満足① ワークモチベーション理論の歴史的発展
- 第14回 働く意欲と職務満足② ワークモチベーション理論(強化理論)
- 第15回 働く意欲と職務満足③ ワークモチベーション理論(認知的理論)
- 第16回 働く意欲と職務満足④ 行動科学的管理論(欲求理論、内発的動機づけ)
- 第17回 働く意欲と職務満足⑤ 行動科学的管理論(動機づけ-衛生理論、職務拡大と職務充実)
- 第18回 働く意欲と職務満足⑥ 行動科学的管理論(目標設定理論、目標管理制度)
- 第19回 人事管理と能力開発① 人事管理制度の変遷
- 第20回 人事管理と能力開発② キャリア発達
- 第21回 職場の中の人間関係① 職場集団の形成、集団規範、同調と逸脱
- 第22回 職場の中の人間関係② 小集団の病理
- 第23回 職場の中の人間関係③ 対人葛藤
- 第24回 職場の中の人間関係④ リーダーとフォロワー
- 第25回 職場の中の人間関係⑤ リーダーシップ理論
- 第26回 産業ストレスとメンタルヘルス① 産業ストレスの現状
- 第27回 産業ストレスとメンタルヘルス② 産業ストレスの要因
- 第28回 産業ストレスとメンタルヘルス③ 産業ストレス理論

【成績評価の方法】

試験 100%
成績評価は期末試験による。

【教科書】

NIP研究会（編）仕事とライフスタイルの心理学 福村出版

【参考文献】

随時、指示する。

科目名 クラス 講義区分

産業組織論 <通期>

田 中 悟

4単位

【講義概要】

産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、企業間の競争形態が産業や経済に与える効果について考える。本講義では、マイクロ経済理論を応用することによって、企業間の競争形態や相互依存関係がいかに企業行動に影響を与え、これを通じて経済の成果（パフォーマンス）がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策（産業政策・規制政策・競争政策等）についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。

【学習目標】

産業組織論の基礎的な理論の習得を通じて、産業内で機能する企業間の競争形態とその経済的効果について学ぶと共に、産業に対する公共政策がどのような根拠でどのように行われているかを理解することが本講義の学習目標である。こうした学習目標に向けて、現実の産業や企業の動きが経済学的にどのように理解できるのかに留意しながら、講義に臨むことが期待される。

【講義計画】

- 第1回 序 産業組織論の対象と課題（産業組織論とは？）
 第2回 企業の利潤最大化行動（基礎概念）
 第3回 "（利潤最大化行動の基本命題）
 第4回 競争と独占の経済理論（競争市場の帰結）
 第5回 "（独占市場の帰結）
 第6回 独占企業の行動（価格差別①）
 第7回 "（価格差別②）
 第8回 "（製品戦略：バンドリング）
 第9回 "（広告と製品差別化）
 第10回 "（独占に対する公共政策）
 第11回 企業の境界と企業行動（M&Aの経済学①）
 第12回 "（M&Aの経済学②）
 第13回 "（垂直統合・垂直的取引制限①）
 第14回 "（垂直統合・垂直的取引制限②）
 第15回 "（M&A・垂直的取引制限に対する公共政策）
 第16回 寡占市場の経済理論（ゲーム理論の基礎）
 第17回 "（ベルトラン競争モデル）
 第18回 "（クールノー競争モデル）
 第19回 "（カルテルの経済理論）
 第20回 "（カルテルに対する公共政策）
 第21回 戦略的行動（戦略的行動とは何か）
 第22回 "（戦略的行動の分類）
 第23回 "（ライバル企業に対する戦略行動）
 第24回 "（参入阻止戦略）
 第25回 イノベーションと産業組織（R&D活動とその規定因）
 第26回 "（知的財産制度・産業組織とイノベーション）
 第27回 "（技術標準と企業戦略）
 第28回 "（イノベーション・知的財産制度と競争政策）

【成績評価の方法】

授業中に課す課題ないしは宿題（30％）と定期試験（70％）の結果を総合して評価する。

【教科書】

土井教之編著 産業組織論入門 ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 丸山雅祥（2005）『経営の経済学』（有斐閣）
- 長岡貞男・平尾由紀子（1998）『産業組織の経済学』（日本評論社）
- 小田切宏之（2008）『競争政策論』（日本評論社）
- 浅羽茂（2004）『競争戦略の経済学』（日本評論社）
- 後藤晃・鈴木興太郎編（1999）『日本の競争政策』（東京大学出版会）

科目名 クラス 講義区分	
資格英語－TOEIC 1A <春>	
片 淵 悦 久	1単位

【講義概要】

TOEIC テストPart 5、6（文法・語彙問題）、およびPart 7（読解問題）対策のための基本文法事項の確認を行う。実践的な問題演習も実施して、スコアアップに必要な英語読解力を養成する。

【学習目標】

基礎英文法事項の総復習とTOEICテストスコア・アップに必要な文法、リーディング問題中心の実践的問題演習による読解力の養成。

【講義計画】

- 第1回 Introduction（授業概要の説明）
- 第2回 品詞、動詞
- 第3回 時制、助動詞
- 第4回 仮定法、受動態
- 第5回 不定詞、動名詞
- 第6回 分詞、名詞
- 第7回 冠詞、代名詞
- 第8回 形容詞、副詞
- 第9回 比較、関係詞
- 第10回 接続詞、前置詞
- 第11回 語彙
- 第12回 読解(1)
- 第13回 読解(2)
- 第14回 予備
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 40% 出席 10%

【教科書】

加藤 治 TOEICテスト：リーディングの要点－基礎文法から実戦へ－ 朝日出版社

【備考】

1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
資格英語－TOEIC 1B <秋>	
片 淵 悦 久	1単位

【講義概要】

TOEIC Part 7（読解問題）対策を射程に入れ、頻出する英文法事項の確認を行う。合わせて問題演習も実施し、長文読解力を養成する。

【学習目標】

TOEICテストに頻出する重要英文法事項の確認と、Part 7（読解問題）スコアアップのための速読力の英文解釈力の養成。

【講義計画】

- 第1回 Introduction（授業概要説明）
- 第2回 TOEIC Part 7とは
- 第3回 主語の判別(1)
- 第4回 主語の判別(2)
- 第5回 不定詞、分詞構文、仮定法
- 第6回 関係代名詞、分詞
- 第7回 倒置
- 第8回 ショート・パラグラフ速読(1)
- 第9回 ショート・パラグラフ速読(2)
- 第10回 応用編：シングル・パッセージ(1)
- 第11回 シングル・パッセージ(2)
- 第12回 ダブル・パッセージ(1)
- 第13回 ダブル・パッセージ(2)
- 第14回 予備
- 第15回 最終試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 40% 出席 10%

【教科書】

Aaron Calcote、先川 暢郎、岩崎 光一 スピード・リーディング－新TOEICテストPart 7対策－ 朝日出版社

【備考】

1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
<02～07生>は読替一覧参照の事。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 2A <春>	
山 科 美和子	1単位

【講義概要】

この講義はTOEIC Test受験予定の学生向けリスニング&スピーキング対策講座である。但し、TOEIC Testのスコアを上げるためには、まず英語の基礎力が不可欠であるので、語彙やリスニングスキル習得にも焦点をあてる。ほぼ毎回宿題を課すので、了解の上受講すること。

【学習目標】

様々なリスニング練習を行い、リスニング基礎力を養うこと。
TOEIC受験に必要な語彙力を養うこと。
実践問題を解き、TOEICの問題形式に慣れること。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Pre-Test
- 第2回 Vocablary Building, ch 1
- 第3回 音読、dictation, ch 2
- 第4回 Shadowing, ch 3
- 第5回 Sight-translation, ch 4
- 第6回 Vocablary Building, ch 5
- 第7回 音読、dictation, ch 6
- 第8回 Shadowing, ch 7
- 第9回 Sight-translation, ch 8
- 第10回 Vocablary Building, ch 9
- 第11回 音読、dictation, ch 10
- 第12回 Shadowing, ch 11
- 第13回 Sight-translation, ch 12
- 第14回 実践問題

【成績評価の方法】

小テスト：40% 語彙テスト：30% 平常点：20% HW課題：10%

【教科書】

石井隆之他 Total Strategy for the TOEIC Test 成美堂

【参考文献】

授業内に指示する。

【備考】

TOEIC 1 (Reading&Writing) とTOEIC 2 (Listening&Speaking) はペアで履修することが望ましい。
ほぼ毎回HW課題を出す予定。
<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 2B <秋>	
山 科 美和子	1単位

【講義概要】

この講義はTOEIC Test受験予定の学生向けリスニング&スピーキング対策講座である。但し、TOEIC Testのスコアを上げるためには、まず英語の基礎力が不可欠であるので、語彙やリスニングスキル習得にも焦点をあてる。ほぼ毎回宿題を課すので、了解の上受講すること。

【学習目標】

様々なリスニング練習を行い、リスニング基礎力を養うこと。
TOEIC受験に必要な語彙力を養うこと。
実践問題を解き、TOEICの問題形式に慣れること。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Pre-Test
- 第2回 TOEIC Test Part 1/2、音読
- 第3回 TOEIC Test Part 1/2、速読
- 第4回 TOEIC Test Part 1/2、Shadowing
- 第5回 TOEIC Test Part 1/2、Sight-translation
- 第6回 TOEIC Test Part 2/3、Vocablary Building
- 第7回 TOEIC Test Part 2/3、音読、dictation
- 第8回 TOEIC Test Part 2/3、Shadowing
- 第9回 TOEIC Test Part 2/3、Sight-translation
- 第10回 TOEIC Test Part 3/4、Vocablary Building
- 第11回 TOEIC Test Part 3/4、音読
- 第12回 TOEIC Test Part 4、Shadowing
- 第13回 TOEIC Test Part 4、Sight-translation
- 第14回 まとめ、実践問題

【成績評価の方法】

小テスト：40% 語彙テスト：30% 平常点：20% HW課題：10%

【教科書】

Mark D. Stafford Vital Skills for the TOEIC Test: Listening
桐原書店
片野田浩子他 TOEIC TEST Listening 550 南雲堂

【参考文献】

授業内に指示する。

【備考】

TOEIC 1 (Reading&Writing) とTOEIC 2 (Listening&Speaking) はペアで履修することが望ましい。
ほぼ毎回HW課題を出す予定。
<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 3A <春>	
片 瀬 悦 久	1単位

【講義概要】

TOEIC テスト文法・語彙問題 (Part 5、6)、および読解問題 (Part 7) 対策のため文法類出項目の総復習を行う。合わせて問題演習を実施し、総合的な英語読解力を養成する。

【学習目標】

文法・語彙類出事項の総復習と実践問題演習によるTOEICテストスコア・アップに必要な文法、リーディング力の養成。

【講義計画】

- 第1回 Introduction (授業概要の説明)
- 第2回 品詞・前置詞
- 第3回 接続詞・代名詞
- 第4回 受動態・分詞・時制
- 第5回 If節、動名詞と不定詞・その他の動詞
- 第6回 比較・可算、不加算名詞
- 第7回 関係代名詞・副詞の使い分け
- 第8回 主語と動詞の一致・長文穴埋め・その他
- 第9回 読解問題の解き方 (以下、問題別)
- 第10回 手紙、E-mail、ファックス、メモ
- 第11回 新聞記事、ウェブ・ページ
- 第12回 通知、公示、説明書
- 第13回 広告・申込用紙
- 第14回 スケジュール・地図・ダブルパッセージ
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 (期末試験) : 50% レポート (小テスト計) : 40%
出席 : 10%

【教科書】

西谷敦子、ジェイムズ・G・ウォン 新TOEICテスト文法・読解問題類出ポイント 朝日出版社

【備考】

1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 3B <秋>	
片 瀬 悦 久	1単位

【講義概要】

TOEIC Part 7 (読解問題) 対策を射程に入れ、頻出する英文法事項の確認を行う。合わせて、より実践的な問題演習を実施し、リーディング・セクションにおいて高得点を狙える英文読解力を養成する。

【学習目標】

TOEICテストに頻出する重要英文法事項の確認と、Part 7 (読解問題) スコアアップのための速読力を駆使した英文情報処理能力と解読力の養成。

【講義計画】

- 第1回 Introduction (授業概要説明)
- 第2回 文法問題解法パターン
- 第3回 長文読解問題解法テクニック
- 第4回 実践問題(1)
- 第5回 実践問題(2)
- 第6回 実践問題(3)
- 第7回 実践問題(4)
- 第8回 実践問題(5)
- 第9回 実践問題(6)
- 第10回 実践問題(7)
- 第11回 実践問題(8)
- 第12回 実践問題(9)
- 第13回 実践問題(10)
- 第14回 実践問題(11)・(12)
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 (期末試験) : 50% レポート (小テスト計) : 40%
出席 : 10%

【教科書】

安藤裕介、Rory Britto、市川野康、松田教司 文法・読解で高得点をねらう新TOEIC Test 松柏社

【備考】

1と2、3と4はそれぞれペアで履修することが望ましい。
<02~07生>は読替一覧参照の事。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 4 A <春>	
森 岡 裕 一	1 単位

【講義概要】

リスニングを中心にTOEIC得点力アップのための実践的授業を行う。

【学習目標】

TOEICとはどのようなテストなのかを理解したうえで、効果的な学習法を体得し得点力アップにつなげる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション、TOEICとは。
- 第2回 Lesson 1～2
- 第3回 Lesson 3～4
- 第4回 Lesson 5～6
- 第5回 Lesson 7～8
- 第6回 Lesson 9～10
- 第7回 Lesson 11～12
- 第8回 Lesson 13～14
- 第9回 Lesson 15～16
- 第10回 Lesson 17～18
- 第11回 Lesson 19～20
- 第12回 Lesson 21～22
- 第13回 Lesson 23～24
- 第14回 模擬テスト

【成績評価の方法】

授業内での応答： 90% 出席： 10%

【教科書】

Jim Knudsen, Kei Mihara TOEIC Test To the Point 南雲堂

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
資格英語 - TOEIC 4 B <秋>	
森 岡 裕 一	1 単位

【講義概要】

リスニングを中心にTOEIC得点力アップのための実践的授業を行う。

【学習目標】

TOEICとはどのようなテストなのかを理解したうえで、効果的な学習法を体得し得点力アップにつなげる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション、TOEIC対策について。
- 第2回 Lesson 1
- 第3回 Lesson 2
- 第4回 Lesson 3
- 第5回 Lesson 4
- 第6回 Lesson 5
- 第7回 模擬テスト
- 第8回 Lesson 6
- 第9回 Lesson 7
- 第10回 Lesson 8
- 第11回 Lesson 9
- 第12回 Lesson 10
- 第13回 Appendix
- 第14回 模擬テスト

【成績評価の方法】

授業内での応答： 90% 出席： 10%

【教科書】

Aaron Calcote 他 Strategic Approaches to the TOEIC Test 朝日出版社

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
自然科学－基礎数学 < 通期 >	
川 畑 洋 昭	4 単位

【講義概要】

本講義では、大学や社会に必要な数学の基礎を学ぶことを目的としています。高等学校で学んだ数学の復習を兼ねて公務員試験（大学・短大卒程度）の中より実践問題を解説し、その後、微積分と線形代数を基本に大学の教養課程で学ぶ標準的な問題を解説します。基本的、標準的な問題を数多く解くことにより、具体的問題を解く実践的な力を養成することに力点を置いて講義します。

【学習目標】

大学の教養課程の数学を修了するにふさわしい数学の素養を身につけることを最終の学習目標としますが、各自の専門分野を問わず、数学的素養を大学卒業後も向上させていきたいというモチベーションを強く意識に残すことを最大の学習目標とします。数学の世界のいろいろな概念の理解とそれら相互間の関係の理解など、数学の持つ純粋で奥深い魅力の理解と具体的問題の解決能力の向上を目指します。

【講義計画】

- 第1回 高等学校までに学んだ数学内容の復習（上級地方・国家公務員採用試験より抜粋）（その1）
- 第2回 " " （その2）
- 第3回 " " （その3）
- 第4回 " " （その4）
- 第5回 " " （その5）
- 第6回 " " （その6）
- 第7回 " " （その7）
- 第8回 " " （その8）
- 第9回 " " （その9）
- 第10回 " " （その10）
- 第11回 微分法 （その1）
- 第12回 " （その2）
- 第13回 " （その3）
- 第14回 1変数の積分法 （その1）
- 第15回 " （その2）
- 第16回 偏微分法 （その1）
- 第17回 " （その2）
- 第18回 重積分、定積分の応用 （その1）
- 第19回 " （その2）
- 第20回 " （その3）
- 第21回 微分方程式 （その1）
- 第22回 " （その2）
- 第23回 " （その3）
- 第24回 線形代数 （その1）
- 第25回 " （その2）
- 第26回 " （その3）
- 第27回 " （その4）
- 第28回 " （その5）

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

江川博康 大学1・2年生のためのすぐわかる数学 東京図書

科目名 クラス 講義区分	
自然科学－サイエンス・リテラシー入門 < 秋集 >	
本 間 栄 男	4 単位

【講義概要】

「科学について知っておいた方が良いのかもしれない」なるべく最新の自然科学の話題について学ぶ。

【学習目標】

自然科学について十分な知見を得るというよりも、現在の話題についてほしい判断ができるようになる最低限のリテラシーを獲得すること。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 科学とは
- 第3回 科学コミュニケーション論
- 第4回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第5回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第6回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第7回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第8回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第9回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第10回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第11回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第12回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第13回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第14回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第15回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第16回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第17回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第18回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第19回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第20回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第21回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第22回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第23回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第24回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第25回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第26回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第27回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第28回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第29回 最新の自然科学の話題を取り上げる
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加

【参考文献】

雑誌『日経サイエンス』、『ニュートン』
佐倉統・古田ゆかり『おはようからおやすみまでの科学』ちくまブリマー新書 2006

【備考】

講義出席者による積極的な参加が必要条件です。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
自然科学-生物学Ⅰ <秋集>	
巖 圭 介	4単位

【講義概要】

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解している者はきわめて少ない。

この授業では、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

【学習目標】

生物の進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 生命の起源
- 第3回 生命の分化と共生
- 第4回 進化の大爆発
- 第5回 第1回イン・クラス・レポート
- 第6回 DNA 1
- 第7回 DNA 2
- 第8回 進化のメカニズム
- 第9回 自然選択
- 第10回 進化と突然変異
- 第11回 偶然と必然
- 第12回 第2回イン・クラス・レポート
- 第13回 遺伝子組み換え
- 第14回 性の進化 1
- 第15回 性の進化 2
- 第16回 性差の進化
- 第17回 性比の進化
- 第18回 第3回イン・クラス・レポート
- 第19回 近親交配
- 第20回 血縁選択
- 第21回 真社会性の進化
- 第22回 雌雄の対立、親子の対立
- 第23回 ゲーム理論と社会性
- 第24回 第4回イン・クラス・レポート
- 第25回 生物保全 1
- 第26回 生物保全 2
- 第27回 人類の進化 1
- 第28回 人類の進化 2
- 第29回 人類のこれから
- 第30回 総復習

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 40% 出席 0%
 イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出席して、その場で書き上げて提出してもらったレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうのが目的である。レポートをすべて提出した上で、試験で6割程度得点すれば単位を与える。

【参考文献】

適宜授業中に示す

科目名 クラス 講義区分	
思想-旧約聖書を読む <秋集>	
滝澤 武人	4単位

【講義概要】

キリスト教の正典である『聖書』は、『旧約聖書』と『新約聖書』からなっています。旧約聖書には、古代ユダヤ民族の1000年間にわたるさまざまな時代に書かれた、歴史・宗教・思想・文学などの39巻の文書が含まれています。それはユダヤ教・キリスト教・イスラム教の「聖書」であると同時に、現代においても人類全体の重要な知的遺産であり、世界の古典中の古典です。この旧約聖書をできるだけ広く深く「読む」こと、それがこの講義の概要です。

【学習目標】

旧約聖書にはさまざまな「人間」のさまざまな「生きかた」が見いだされるでしょう。それを自分自身の「人生」と重ね合わせながら読むことが目標となります。もちろん、「信仰」の有無にはまったく関係なく、誰でも受講することができます。「世界の市民」の教養として、ぜひ旧約聖書にチャレンジしてほしいと思います。熱心で真面目な学生諸君のねばり強い主体的な受講を期待しています。

【講義計画】

- 第1回 「旧約聖書」とは？
- 第2回 天地創造物語
- 第3回 エデンの園の物語
- 第4回 カインとアベル
- 第5回 ノアの箱船
- 第6回 アブラハム(1)
- 第7回 " (2)
- 第8回 イサク
- 第9回 ヤコブ(1)
- 第10回 " (2)
- 第11回 ヨセフ(1)
- 第12回 " (2)
- 第13回 モーセ(1)
- 第14回 " (2)
- 第15回 ダビデ(1)
- 第16回 " (2)
- 第17回 ビデオ(1)
- 第18回 ビデオ(2)
- 第19回 預言者(1)
- 第20回 " (2)
- 第21回 " (3)
- 第22回 " (4)
- 第23回 文学(1)
- 第24回 " (2)
- 第25回 " (3)
- 第26回 " (4)
- 第27回 " (5)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15%
 レポートは3回の予定です。(各5点)
 最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

新共同訳 聖書(旧約聖書統編つき) 日本聖書協会

【参考文献】

AERA Mook『旧約聖書がわかる。』朝日新聞社
 阿刀田 高『旧約聖書を知っていますか』新潮文庫
 三浦 綾子『旧約聖書入門』光文社文庫

科目名	クラス	講義区分
思想－諸子百家 <秋集>		
林 宏 作	4 単位	

【講義概要】

諸子百家とは、中国の春秋・戦国時代に現れた多くの思想家、またはその学派や学説に対する総称である。この講義では、諸子百家を生んだ時代や社会的背景から、儒・道・墨・名・法など諸家の学説の概要、さらに孔子・孟子・老子・荘子・墨子・韓非子など各学派の代表的思想家について論じ、中国古代思想を明らかにしたい。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
・ガイダンス ・授業計画について
- 第2回 諸子百家を生んだ社会的背景
- 第3回 諸子百家を生んだ社会的背景
- 第4回 諸子百家を生んだ社会的背景
- 第5回 諸子百家概説
- 第6回 諸子百家概説
- 第7回 孔子について
- 第8回 孔子について
- 第9回 孔子について
- 第10回 孔子について
- 第11回 孟子について
- 第12回 孟子について
- 第13回 孟子について
- 第14回 荀子について
- 第15回 荀子について
- 第16回 荀子について
- 第17回 中間試験
- 第18回 墨子について
- 第19回 墨子について
- 第20回 墨子について
- 第21回 墨子について
- 第22回 老子について
- 第23回 老子について
- 第24回 老子について
- 第25回 荘子について
- 第26回 荘子について
- 第27回 韓非子について
- 第28回 韓非子について
- 第29回 韓非子について
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

中間試験・学期末の定期試験・毎回授業後のまとめ・授業への出席状況などにより、総合的に評価する。

【教科書】

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

参考文献は適時、紹介する。

科目名	クラス	講義区分
思想－中国思想から今を読む <春集>		
串 田 久 治	4 単位	

【学習目標】

中国古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。

本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。

したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。

【講義計画】

- 第1回 第一部 発想の転換
- 1 不満と満足
 - 2 バランス感覚
 - 3 無用と有用
- 第二部 真実を見抜く
- 1 プロフェッショナルとは何か？
 - 2 法治国家とは何か？
 - 3 銅臭とは何か？
- 第三部 国家の責務
- 1 政治家の条件
 - 2 天災
 - 3 棄民
- 第四部 平和への希求
- 1 テロリスト群像
 - 2 戦争請負業
 - 3 イソップ「戦争と傲慢」
- 第五部 人間の魅力
- 1 飲酒のススメ
 - 2 昼寝のススメ
 - 3 軟弱のススメ

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

串田久治 無用の用 研文出版

【参考文献】

林語堂著『支那のユーモア』（岩波新書）
 林語堂著『中国＝文化と思想』（講談社学術文庫）
 宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
 串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書）
 串田久治著『中国古代の「諺」と「予言」』（創文社）
 串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
 KUSHIDA'S WEB SITE
<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

科目名 クラス 講義区分	
思想－法思想史 <秋集>	
早川 のぞみ	4単位

【講義概要】

この講義では、法と正義の関係、法と国家の関係、民主制のあり方など、法制度をいわば法外在的に基礎づける根本原理に関する法哲学の思想について、歴史的な流れに沿って学びます。講義では、近代以降から現代にかけて登場する法思想を中心に取り上げます。また、その際には、個人の権利と自由という観念がどのように生成し、それを保障する思想・理論がどのように展開されてきたのかという問題を検討します。例えば、日本国憲法の基本的な権利規定の淵源を辿っていくとアメリカ独立宣言があり、それに対してジョン・ロックの自然権が強く影響を与えているといわれます。近代自然法論の中で登場したロックの自然権という観念が、どのような仕方で人間の基本的な権利として思想的に確立されてきたのか。また、近代より前の人権観念とはどのようなものであったのか。さらに、現代において、個人の自由・平等が、国家や共同体、民主制との関係において、どのような仕方で捉えられるのか。とりわけ、現代正義論の中では、ジョン・ロールズによって、個人の自由と平等を根本原理に据える、いわゆるリベラルな法秩序が理論が提示されており、今日、その理論枠組みが、様々な視座から批判的に検討されています。法思想・人権思想の歴史的展開と展望に焦点を当てます。

【学習目標】

各時代背景の中で、提唱された代表的な法思想についての知見を学びます。それぞれの時代背景の中で、人と社会を規律する法の姿について、論者たちがどのように考えたのかを辿り、法と人権をめぐるこれまでの歴史的な思想を展望する事を通して、今日の法制度の方向性について、法を多角的な観点から考えていく手掛かりの一つを獲得することを、学習目標とします。

【講義計画】

- 第1回 序論(1)―法思想史について
- 第2回 序論(2)―法の目的と正義
- 第3回 古代の法思想と中世の法思想(1)
- 第4回 古代の法思想と中世の法思想(2)
- 第5回 古代の法思想と中世の法思想(3)
- 第6回 近代自然法論の成立(1)―イギリス市民革命期の法思想
- 第7回 近代自然法論の成立(2)―イギリス市民革命期の法思想
- 第8回 近代自然法論の成立(3)―アメリカ独立宣言と法思想
- 第9回 近代自然法論の成立(4)―フランス啓蒙期の法思想
- 第10回 ドイツ観念論の法思想(1)
- 第11回 ドイツ観念論の法思想(2)
- 第12回 ドイツ観念論の法思想(3)
- 第13回 イギリスの功利主義(1)
- 第14回 イギリスの功利主義(2)
- 第15回 イギリスの功利主義(3)
- 第16回 分析法学から歴史法学へ
- 第17回 ドイツ法律学の展開
- 第18回 社会主義の法思想
- 第19回 アメリカの法思想とプラグマティズム(1)
- 第20回 アメリカの法思想とプラグマティズム(2)
- 第21回 アメリカの法思想とプラグマティズム(3)
- 第22回 現代正義論とその展開(1)―功利主義と価値相対主義
- 第23回 現代正義論とその展開(2)―ロールズの正義論
- 第24回 現代正義論とその展開(3)―ロールズの正義論
- 第25回 現代正義論とその展開(4)―ドゥオーキンの資源の平等論
- 第26回 現代正義論とその展開(5)―リバタリアリズム、共同主義、フェミニズム
- 第27回 現代正義論とその展開(6)―リバタリアリズム、共同主義、フェミニズム
- 第28回 総括

【成績評価の方法】

期末試験(筆記試験)により評価します。

【教科書】

田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦 法思想史(第2版)有斐閣

【参考文献】

- ・加藤新平『法思想史(新版)』勁草書房、1973年
- ・三島淑臣『法思想史(新版)』青林書院、1993年
- ・笹倉秀夫『法思想史講義(下)』東京大学出版会、2007年

*初回の授業で、紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
視聴覚教育 <秋>	
冷水 啓子	2単位

【講義概要】

・テーマ：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアの教育利用について

・授業の概要：この授業では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点及びその教育的可能性と限界について考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習(インターネット利用及びパワーポイントによるプレゼンテーション作品の企画・制作)を行う。

【学習目標】

・授業の到達目標：視聴覚教育及び視聴覚教育メディアについての理解を深め、視聴覚メディアを活用した教育実践を概観する。さらに、コンピュータ実習やプレゼンテーション作品の制作を通じて、情報を適切に理解し、利用し、産出する能力やスキル(マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など)の習得をめざす。

【講義計画】

- 第1回 授業を始める前に(授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて)
- 第2回 視聴覚教育及び視聴覚教育メディアとは何か
- 第3回 視聴覚教育及び視聴覚教育メディアの変遷
- 第4回 活字・印刷物の利用(1)―教科書・絵本・児童書の特徴
- 第5回 活字・印刷物の利用(2)―マンガの特徴と挿絵の効果
- 第6回 活字・印刷物の利用(3)―新聞とNIE
- 第7回 テレビとビデオの利用(1)―その利用形態と社会・教育的影響
- 第8回 テレビとビデオの利用(2)―幼児教育番組
- 第9回 テレビとビデオの利用(3)―字幕や手話通訳つき番組と文字情報保障
- 第10回 コンピュータ・ゲームの利用―子どもの発達と学習への影響
- 第11回 コンピュータの教育利用と諸問題―光と影
- 第12回 プレゼンテーション作品の制作(1)―パワーポイントの使い方
- 第13回 プレゼンテーション作品の制作(2)―企画と資料収集
- 第14回 プレゼンテーション作品の制作(3)―作品を仕上げる
- 第15回 作品の発表と講評

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じてレポート課題を与える。学期末に、制作したプレゼンテーション作品及び修正レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使わないが、スライド(パワーポイント)、インターネット、ビデオ(DVD)、印刷物などを通じて資料提供を行う。

【参考文献】

- ・井上智義(編)『視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2』(北大路書房)
- ・桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』(2009年度版)
- ・無藤 隆(編)『テレビと子どもの発達』(東京大学出版会)
- ・坂元 昂(監)『メディア心理学入門』(学文社)

科目名 クラス 講義区分	
実務英語 01 <春集>	
三宅 亨	4単位

【講義概要】

Globalizationの進む中で外国人とのコミュニケーションがますます必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように短期間の訪問者への対応だけでなく、今では同僚・隣人・友人として、あるいは仕事上の付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、出張や旅行などでの短期海外訪問・滞在や転勤などで長期海外生活を送る日本人が珍しくない時代になってきた。この講義では、海外へ出かけたり、外国人とのビジネス（社交面を含む）を円滑に進めるうえで最小限必要とされる英語（English for Business）の諸相を取り上げる。毎回多量の英文を素早く読み取る練習、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。受講生は積極的にTOEICを受験してもらいたい。

【学習目標】

外国人とのコミュニケーションに最低限必要な英語力（TOEIC 500点程度）の習得を目指す。以下の授業計画に示すように、英語実用文の理解力を要請することを中心にする。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要
英語の基礎学力測定
(第1回目の授業は必ず出席すること)
- 第2回 人物紹介、自己紹介と自己PR
- 第3回 パーティの席での英語とマナー
- 第4回 数字表現と度量衡
- 第5回 電話のかけ方(1)
- 第6回 電話のかけ方(2)
- 第7回 電話のかけ方(3)
- 第8回 英字新聞の読み方(1)
- 第9回 英字新聞の読み方(2)
- 第10回 英字新聞の読み方(3)
- 第11回 英字新聞の読み方(4)
- 第12回 看板・掲示文の読み方(1)
- 第13回 看板・掲示文の読み方(2)
- 第14回 看板・掲示文の読み方(3)
- 第15回 復習
- 第16回 ラベル・注意書・説明書の読み方(1)
- 第17回 ラベル・注意書・説明書の読み方(2)
- 第18回 ラベル・注意書・説明書の読み方(3)
- 第19回 道路標識の見方(1)
- 第20回 道路標識の見方(2)
- 第21回 道路標識の見方(3)
- 第22回 世界の食文化
- 第23回 メニューの読み方(1)
- 第24回 メニューの読み方(2)
- 第25回 レストランでの英語
- 第26回 ビジネス英語の基礎(1)
- 第27回 ビジネス英語の基礎(2)
- 第28回 ビジネス英語の基礎(3)
- 第29回 英文履歴書の書き方
- 第30回 復習

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

学期末試験は行わない。毎回の小試験と、出席と授業への参加度により評価する。この講義は社会人になる準備をする実践的内容を扱うので、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

【教科書】

教室では、できるだけ最新の教材・内容を取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント（handouts）を配布する。

【参考文献】

授業中に、その都度指示する。

【備考】

<02～07生>のみ履修可

【LI・LE生】は学科自由科目として履修可

科目名 クラス 講義区分	
実務英語 02 <秋集>	
三宅 亨	4単位

【講義概要】

この科目は将来英語を使って仕事をしたいと希望する学生を対象とする。この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、企業の社交通信文や電子メールなどを含めて、実社会に必要な実用英文を書くことに重点を置く。また、貿易通信文については、貿易実務に必要な基礎的・必要知識も同時にあわせて扱う。毎回相当量の英文を書くことという課題を与えるので、十分な復習と予習をして授業に臨むこと。受講生は積極的にTOEICを受験してもらいたい。

【学習目標】

ビジネスに必要な英文文書の基礎を習得する。併せて、貿易実務の基礎を理解する。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要
ビジネスレターとは
- 第2回 ビジネスレターの構成
- 第3回 ビジネスレターの構成要素(1)
- 第4回 ビジネスレターの構成要素(2)
- 第5回 ビジネスレターの構成要素(3)
- 第6回 社内メモ(1)
- 第7回 社内メモ(2)
- 第8回 電子メール
- 第9回 ビジネス通信文の本文
- 第10回 社交通信文（～第19回まで）
面会の申し込み
- 第11回 ホテルの予約
- 第12回 礼状
- 第13回 紹介状
- 第14回 招待状
- 第15回 復習
- 第16回 昇進祝い
- 第17回 お悔やみ
- 第18回 人事異動
- 第19回 会議の招集状
- 第20回 貿易通信文（～第29回まで）
取引先の選定
- 第21回 信用照会
- 第22回 取引の申し込み
- 第23回 取引条件協定書の締結
- 第24回 引き合い
- 第25回 オファーと契約成立
- 第26回 売買契約の履行
- 第27回 信用状
- 第28回 船積み
- 第29回 英文履歴書の書き方
- 第30回 復習

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%

期末試験は実施しないが、毎回の小テストで評価する。また、正当な理由なしに6回以上欠席した場合、それ以後の出席を認めない。

【教科書】

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

【参考文献】

授業中に、その都度指示する。

【備考】

<02～07生>のみ履修可

【LI・LE生】は学科自由科目として履修可

科目名 クラス 講義区分	
児童英語 <通期>	
福 智 佳代子	4 単位
【講義概要】	
チャンツ、TPR、歌、など児童英語教育によく使われる指導法、ロールプレイング、タスク活動、プロジェクト学習など児童の特性を活かした活動が、実際どのような形で行われているか、教育現場での実践例をワークショップ形式で紹介、プレゼンテーション、模擬授業を行い、結果をディスカッションするという流れで授業を行う。	
【学習目標】	
外国語活動を義務教育として小学校で行う』とする新しい学習指導要領（、2008年3月28日）が発表され、2011年度より全国の小学校で、義務教育としての外国語（英語）活動が始まる。授業では、	
1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ	
2. 「コミュニケーション能力の素地を養う」ための児童英語教育に効果的な指導法とはいかなるものか、	
3. 幼稚園児・小学生に見合った「言語や文化にふれる活動」を考えた授業創りとはどんなものであるかを、総合的に学習する。	
【講義計画】	
第1回	国際理解につながる児童英語教育のあり方と現状（児童英語授業体験）
第2回	児童期における第2言語教育
第3回	児童の特性を活かした授業法(1)（英語の歌 活用の意義と指導）
第4回	児童の特性を活かした授業法(2)（チャンツ、ライム、マザーグース）
第5回	児童の特性を活かした授業法の活かし方（チャンツ創作、プレゼンテーション準備）
第6回	プレゼンテーション「歌、チャンツ、ライム」
第7回	児童の特性を活かした授業法(3)（TPR・動作を扱う活動）
第8回	児童が楽しむ英語活動(1)（ゲームを活用した授業法の意義と留意点）
第9回	児童が楽しむ英語活動(2)（絵本・物語を楽しむ英語活動とその意義）
第10回	プレゼンテーション「TPR、ゲーム、ストーリーテリング」
第11回	児童が楽しむ英語活動(3)（スキット、ロールプレイング、ごっこ遊びを楽しむ活動）
第12回	自己表現につながる英語活動のあり方とワークシートの作り方
第13回	模擬授業準備
第14回	ビデオによる授業観察と授業案作成
第15回	模擬授業
第16回	まとめ
第17回	ビデオによる学年別授業分析 幼稚園、小学校低・中・高学年の実践のあり方
第18回	児童英語教育のゴールと年間カリキュラム（基本になる語彙、表現と機能、場面を考える）
第19回	幼児・園児対象授業案作成
第20回	プレゼンテーション「英語で遊ぼう！」
第21回	低学年対象授業案作成
第22回	プレゼンテーション「トピックを楽しむ英語活動」
第23回	中学年対象授業案作成
第24回	プレゼンテーション「場面、対話を楽しむ英語活動」
第25回	高学年対象授業案作成
第26回	プレゼンテーション「タスク・他教科関連の好奇心をくすぐる英語活動」
第27回	英語ノートを使った5年生対象英語活動
第28回	「5年生 模擬授業」
第29回	英語ノートを使った6年生対象英語活動
第30回	「6年生 模擬授業」
第31回	まとめ「ポートフォリオ」ふりかえりカードと評価
【成績評価の方法】	
出席状況30%、授業に興味・関心を持って、プレゼンテーション等積極的に活動に参加すること30%、レポート40%として評価する。	
【教科書】	
岡秀夫・金森強 共著 小学校英語教育の進め方 成美堂	
各回、必要に応じて資料を配布する。	
【備考】	
<02～07生>は読替一覽参照の事。	

科目名 クラス 講義区分	
児童サービス論 <春>	
清 水 昭 治	2 単位
【講義概要】	
この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に、公立図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生向きまでの幅広い本が準備されています。子供達の成長にとって、読書がいかに大切か、その読書を支える児童サービスの重要性を考えます。	
【学習目標】	
生涯教育が叫ばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。その習慣化は、どのようにしたら、可能になるか、それを学びましょう。	
【講義計画】	
第1回	1. オリエンテーション
第2回	児童・子供のための図書館はどこにある？
第3回	児童・子供のための図書館には何がある？
第4回	児童・子供とは何なのか？
第5回	本を読むということとは？
第6回	児童・子供図書館とは？
第7回	児童・子供図書館員とは？
第8回	児童・子供図書館の仕事 1
第9回	児童・子供図書館の仕事 2
第10回	児童・子供図書館の仕事 3
第11回	児童・子供の発達と図書館 1
第12回	児童・子供の発達と図書館 2
第13回	児童・子供の発達と図書館 3
第14回	これからの児童・子供図書館
第15回	試験
【成績評価の方法】	
レポート、又は、試験に加えて、出席状況なども重視して、総合的に判断・評価します。	
【教科書】	
テキストは使用しません。講義と共に、多彩に出版されている子供の本を具体的に、実際に紹介しながら、又、「絵本読み」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義を進めます。	
【参考文献】	
講義の中で、お知らせします。しかし、もっとも大事な参考文献は、実際の図書館です。特に、皆さんの近くの公立図書館の児童室、児童コーナーを体験しておいてください。	

科目名 クラス 講義区分	
社会科学入門 <通期>	
熊谷次郎	4単位

【講義概要】

社会科学とは、厳密には、社会諸科学 (social sciences) のことであり、経済学、政治学、社会学、法学、経営学などがそこには包摂されている。したがって、社会科学とは、社会科学系の大学の諸学部の中核をなす学問の総称ともいえる。政治・経済・社会に関する学問知識を横断的にとらえ、社会現象を総合的に理解することをめざすのが社会科学という科目の狙いであり、社会科学が関連社会学 (interdisciplinary social sciences) ともいわれる所以である。社会科学という科目が、こうした総合的な営為をめざす分野であるために、非力な個人としては、これが「社会科学である」というような体系的な講義することは至難である。経済学の専門家は経済学に偏った、社会学の専門家は社会学に偏った、政治学の専門家は政治学に偏った「社会科学」講義とならざるをえないだろう。この講義は以下のような計画にそってなされるが、さてどう偏っているか、受講者の判断にゆだねたい。人間、社会、国家、資本主義といったようなテーマを人々はどのように解釈し理解しようとしたか。こうした点を経済学、政治学、社会学、哲学等におけるこれまでの歴史的知見をもとに考えたみたい。

【学習目標】

この講義を受講することで直接役に立つという実利はまずないだろう。——就職試験の常識問題への対策としては、もしかしたら役立つかもしれないが。しかし社会に対する見方や考え方の手がかりとして、教養として、あるいはコミュニケーション能力を構成する一要素として、役立つのではないかと信じている。人間と社会に対する見方や考え方に新たな知見を得て、独善に陥らずに判断し行動する人間となること——このための一助となること、この講義の学習目標である。

【講義計画】

- 第1回 1. 社会科学と何か
- 第2回 2. 社会科学の形成過程
 - 2-1 ルネサンスと宗教改革
- 第3回 2-2 科学革命と社会科学の成立
- 第4回 3. 社会科学の方法
- 第5回 4. 人間と社会
 - 4-1 さまざまな人間観
 - ①労働と人間
 - ②遊びと人間
 - ③シンボルと人間
 - ④機械と人間
 - ⑤理性・生得観念と感覚・経験・行動
 - 4-2. 分業と社会構造
 - ①プラトンにおける分業と社会構成
 - ②アリストテレスにおける分業と社会構成
 - ③トマス・アクィナスにおける職分と位階的社会観
 - ④アダム・スミスにおける交換性向と経済システム
- 第11回 5. 国家と政治
 - 5-1 国家とは何か
 - 第15回 5-2 政治の発見——マキャベリ
 - 第16回 5-3 社会契約論の諸相
 - ①ホッブス
 - ②ロック
 - ③ルソー
 - 第19回 5-4 階級的国家論
 - 第20回 5-5 功利主義的国家論
- 第21回 6. 資本主義とは何か——さまざまな資本主義観
 - 6-1 アダム・スミス——「自愛心」と自動調整機構
 - 第22回 6-2 マルクス——資本主義の矛盾の解剖
 - 第23回 6-3 ウェーバーとゾンバルト——敬虔・勤勉・節欲と冒険・欲望・奢侈
 - 第24回 6-4 レーニン——資本主義と帝国主義
 - 第25回 6-5 ケインズ——自由放任の終焉と国家の役割
 - 第26回 6-6 シュンペーター——起業家による創造的破壊と経済発展
 - 第27回 6-7 ハイエク——真の個人主義と自生的秩序
- 第28回 7. 結論

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

【参考文献】

その都度、必要に応じて指示。

【備考】

1. 中間試験と期末試験との総合点で評価する。
2. 毎回資料を配付する予定。資料だけ取って出て行くというような破廉恥にして卑劣な行為はしないこと。遅刻・途中退出等の際には必ず理由を言うこと。

科目名 クラス 講義区分	
社会学 01 <春集>	
竹内 真澄	4単位

【講義概要】

近代社会の構造と進化のあり方を考える。近代社会の類型を考えていくと、人間が尊重されるような空気をしっかりもつ社会をつくったかどうか、人間が自分のためにどの程度闘ったかをめぐる種差が近代社会を分岐させ、日本、アメリカ、ヨーロッパの現代的違いをもたらす、という点を考えていく。

【学習目標】

我々が生きている社会が、どこから来たのか、またどこへ行くのか、学習してほしい。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 社会と個人
- 第3回 近代社会の流動性
- 第4回 近代社会の神経症
- 第5回 階級社会と市民社会
- 第6回 才能は売買される
- 第7回 学校と社会
- 第8回 生理学的性差と社会的性差
- 第9回 近代の二元的構造
- 第10回 自然法則と社会法則
- 第11回 中流社会と格差社会
- 第12回 民間でできることは民間でやったほうがよいか？
- 第13回 家族の歴史性
- 第14回 市場の歴史性
- 第15回 国家の歴史性
- 第16回 資本主義は放置すると人生を破壊する
- 第17回 社会問題の歴史的展開
- 第18回 革命から人権へ
- 第19回 アメリカ
- 第20回 なぜアメリカの福祉はだめか
- 第21回 アメリカという貧困大国
- 第22回 ヨーロッパ社会をどう見るか
- 第23回 日米の<私的豊かさ>VS北欧の<公的豊かさ>
- 第24回 北欧の男女平等
- 第25回 戦後日本社会の3つの可能性
- 第26回 日本の企業中心社会の形成
- 第27回 日本の新自由主義
- 第28回 総括

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
ただし、レポートを課さない場合は、試験のみで評価する。

【参考文献】

- 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫
- 夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫
- 阿部謹也『日本人の歴史意識』岩波新書
- 高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫
- カール・マルクス『資本論』岩波文庫
- T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社
- 水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波文庫
- 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
- 竹内章郎『哲学塾 新自由主義の嘘』岩波書店
- 渡辺雅男『市民社会と福祉国家』昭和堂
- 竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
- 後藤道夫他『格差社会とたたかう』青木書店
- 堤未果『ルボ貧困大国アメリカ』岩波新書
- 宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書

【備考】

【SW生】は03クラスのみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会学 02 <秋集>	
石田 あゆみ	4単位

【講義概要】

講義前半では、社会学という学問についての基礎的な知識（専門用語や代表的な社会学者たち）や、その学問誕生から発展にいたる歴史的経緯について講義を行い、社会学的思考力を養う。一方、講義後半では、具体的に「日本における通信教育」をテーマとして設定し、その歴史的展開過程を紹介するが、一見特殊なこの教育形態が社会（主に日本）に与えた影響について、社会学的分析枠組みを使って理解することを試みる。

【学習目標】

社会学という学問で形成されてきた「世の中の見方」を学習し、身近な人間関係をはじめ、普段はあまり意識されない日常生活のなかの文化現象の分析を通じて、「私」（＝個人）を社会との関わりあいのなかで意識できるようになることを目標とする。自分なりに世の中や社会について思考できる力を養い、「社会」とは何か、どういったメカニズムに支えられているのかを積極的に疑問に思うこと、不思議に思うこと>ができるようになることを受講者には求める。

【講義計画】

- 第1回 「社会学」で学ぶこと
- 第2回 「個人」と「社会」
- 第3回 集団で暮らす
- 第4回 社会のルール
- 第5回 自殺は「異常」な社会現象か
- 第6回 犯罪は「異常」な社会現象か
- 第7回 社会学的思考
- 第8回 社会学の歴史概略
- 第9回 社会学の誕生
- 第10回 近代の集団・組織
- 第11回 近代社会の問題点
- 第12回 「流行」の見方
- 第13回 「地位」と「役割」
- 第14回 日常生活と社会
- 第15回 通信教育からみる日本社会
- 第16回 明治期の立身出世と講義録
- 第17回 明治期通信教育の社会的機能
- 第18回 敗戦後の民主化政策と家政教育
- 第19回 女性からみた社会通信教育
- 第20回 教育メディアとしてのラジオ・テレビ
- 第21回 勤労青年たちを救う通信教育
- 第22回 通信教育の宗教的救済機能
- 第23回 資格取得を目指す通信教育のゆくえ
- 第24回 大衆社会における受験雑誌メディア
- 第25回 通信教育市場の広告論
- 第26回 英国オープン大学の伝統
- 第27回 米国ホーム・スクールとヴァーチャル・スクール
- 第28回 eラーニングの登場とその可能性

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 20% 出席 10%
講義中に改めて告知する。第一回講義に出席のこと。

【教科書】

佐藤卓己・井上義和編 ラーニング・アロン：通信教育のメディア学 新曜社

【参考文献】

適宜紹介する

【備考】

【SW生】は03クラスのみ履修可

科目名	クラス	講義区分
社会学 03 <秋集>		
宮本孝二	4単位	

【講義概要】

社会学は家族から世界社会までの多種多様な社会的な場と、そこに生じるあらゆる問題や現象を対象とする。すでに200年近い歴史を持つ社会学には、これまでの大量な知識が蓄積されており、さらには現在も日々新たな認識が生産され表現され社会的知識として流通している。それらの大量な情報のなかから、この講義ではまず社会学が誕生以来取り組んできた近代化というメガトレンドについての議論を紹介し、現代社会をマクロな視点で把握する。こうして多様な現代社会論を紹介した後に、人口問題や生活文化、科学技術、環境問題、情報化とマスコミュニケーション、階級・階層問題、組織論、職業と労働、家族、地域、逸脱と社会問題、社会運動など個別テーマを順次解説する。

【学習目標】

この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となる。講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学出題基準に対応して進めるが（新基準にも適宜対応）、社会福祉学科以外の学部学科の皆さんにも受講を勧めたい。

【講義計画】

- 第1回 近代・現代の社会変動(1)近代化
- 第2回 近代・現代の社会変動(2)産業化
- 第3回 近代・現代の社会変動(3)その他の諸トレンド
- 第4回 社会意識と社会的性格
- 第5回 大衆社会論の展開
- 第6回 人口構造とその変動
- 第7回 生活構造とその変動
- 第8回 ジェンダー論の展開
- 第9回 生活時間とボランティア
- 第10回 科学技術と環境問題
- 第11回 情報化社会とマスコミ
- 第12回 階級・階層とSSM調査
- 第13回 貧困問題とアンダークラス
- 第14回 組織論の展開(1)官僚制論とその批判
- 第15回 組織論の展開(2)ポスト官僚制の時代
- 第16回 職業と労働(1)分類の方法
- 第17回 職業と労働(2)労働力人口
- 第18回 職業と労働(3)専門職集団と職業倫理
- 第19回 家族の構造(形態)
- 第20回 家族の機能
- 第21回 家族の形成と解体
- 第22回 家族問題と家族変動
- 第23回 都市社会学とシカゴ学派
- 第24回 現代の都市問題と地域問題
- 第25回 社会問題論の展開
- 第26回 逸脱問題と統制
- 第27回 社会運動と問題解決過程
- 第28回 まとめと補足(1)
- 第29回 まとめと補足(2)
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%

学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

特に使用しない。配布資料によって講義を進める。

【参考文献】

その都度必要に応じて紹介する。

【備考】

【SW生】は03クラスのみ履修可

科目名	クラス	講義区分
社会学 04 <秋集>		
篠原千佳	4単位	

【講義概要】

社会学の講義では、学問としての社会学を学ぶと同時に、社会学の基礎知識を身に付け、さまざまな社会問題を社会的視点で考える。特に、家族、地域社会、メディア、社会階層、コミュニケーション、ジェンダーとセクシュアリティ、エスニシティ、ボランティアを社会的に取り上げ、関連する社会問題を社会的に分析する。

【学習目標】

社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得し、日本のみならず欧米の社会学の発展の歴史についても理解することを目標とする。最近の社会問題を社会的に理解・分析する基礎的能力を育てる。この学期の最終目標は、社会学を学問として理解し、多様化する現代社会の問題をさまざまな社会的視点から理解・分析し、多様な解決方法を模索し提示できるようになることである。

【講義計画】

- 第1回 講義紹介
- 第2回 社会学とは
- 第3回 社会学理論と調査方法
- 第4回 家族社会学1
- 第5回 家族社会学2
- 第6回 地域社会学1
- 第7回 地域社会学2
- 第8回 メディア社会学1
- 第9回 メディア社会学2
- 第10回 階層社会学1
- 第11回 階層社会学2
- 第12回 コミュニケーションの社会学1
- 第13回 コミュニケーションの社会学2
- 第14回 これまでのまとめと復習
- 第15回 ジェンダーとセクシュアリティの社会学1
- 第16回 ジェンダーとセクシュアリティの社会学2
- 第17回 エスニシティの社会学1
- 第18回 エスニシティの社会学2
- 第19回 ボランティアの社会学1
- 第20回 ボランティアの社会学2
- 第21回 多様な社会学1
- 第22回 多様な社会学2
- 第23回 欧米の社会学1
- 第24回 欧米の社会学2
- 第25回 日本の社会学1
- 第26回 日本の社会学2
- 第27回 まとめ
- 第28回 期末試験

【成績評価の方法】

基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への出席・参加・貢献の総合的な判断で評価する。

【教科書】

宇都宮京子（編）よくわかる社会学（第2版）ミネルヴァ書房 第2版が出る予定ですので、そちらをお求めください。

【備考】

【SW生】は03クラスのみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会学基礎講義 01 <春集>	
北川 紀男	4単位

【講義概要】

この科目は、これから社会学を学ぼうとする学生を対象にした講義である。社会学とは、何を、どのように研究する学問であるのかをできるだけ平易に話すつもりである。われわれの日々の生活のなかに、社会的にみて如何に興味ある課題が隠されているかを具体的な問題を取りあげて考察し、社会学に対する関心を啓発したい。この科目は、四年間の学部教育を左右する重要なものであるから、心して真剣に受講して欲しい。

【学習目標】

社会学にどのような研究領域があるのか、またその研究にはどのような方法があるのかを学び取って欲しい。加えて、社会学を学ぶ上で必要な基礎的概念や専門用語などの基礎知識を修得しなければならない。この科目での躓きは、その後の学修に決定的な影響を及ぼすから注意を喚起しておきたい。

【講義計画】

- 第1回 はじめに ～社会学への招待～
- 第2回 社会学における行為分析の位置づけ
- 第3回 意味と相互主観性
- 第4回 アイデンティティ
- 第5回 ステイグマ
- 第6回 正常と異常
- 第7回 予言の自己成就
- 第8回 社会構築主義
- 第9回 社会学における秩序・社会制度分析の位置づけ
- 第10回 ジェンダー
- 第11回 社会規範と制度
- 第12回 コミュニケーションの自己準拠
- 第13回 社会のなかの権力
- 第14回 不平等と正義
- 第15回 社会学における集団・組織・地域社会・全体社会研究の位置づけ
- 第16回 社会集団とその類型
- 第17回 家族
- 第18回 共同体
- 第19回 組織 一官僚制一
- 第20回 社会階層と社会階級
- 第21回 国家と市民社会
- 第22回 移民と国民国家
- 第23回 社会学における文化研究の位置づけ
- 第24回 民族文化と国民文化
- 第25回 国際化と文化摩擦 一異文化間コミュニケーション一
- 第26回 グローバル化と公共圏
- 第27回 ユートピアと想像力
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

学期末試験を中心に評価するが、学習状況を見てレポートを課して総合的に評価する。なお、この科目の重要性から出席状況も重視する。

【教科書】

友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 社会学のエッセンス 有斐閣

【参考文献】

その都度指示する。また必要に応じて資料を配付する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学基礎講義 02 <春集>	
木島 由昌	4単位

【講義概要】

大きく3つの手順をふむ。まず、人間を社会的存在としてとらえるという社会学の基本的な観点について説明しながら、「文化」や「集団」や「制度」と人間との深いかかわりについて考える。つぎに、現代の社会学の基礎を築いた二人の偉大な社会学者、E.デュルケームとM.ヴェーバーの考え方を主としてとりあげ、彼らの理論的遺産との関連で、フロムやマートンらの考えにもふれる。最後に、ゴフマンやアリエス、ブルデューらの考えを紹介しながら、都市・家族・犯罪と非行など、私たちの社会生活のいくつかの重要な側面について考える。

【学習目標】

目標は、各自が社会学の根本的発想に親しみ、かつ、それをみずからの生活に引きつけて考えることである。そこで各テーマを2回に分け、前半(表)をオーソドックスな社会学知識の習得に、後半(裏)を具体的な事例への適用に充てた。学びはそれ自体が快楽である。劇作家の野田秀樹によれば、面白がり、面白がらせるという「がりがらせる心」がなければ、どんな舞台も響いてこない。講義もひとつの舞台であり、あるいはライブ会場である。放電したいので、感電してほしい。

【講義計画】

- 第1回 (1) 社会のなかの人間
 - 1. 鏡に映る自己
- 第2回 2. 「男らしさ」とヴィジュアル系
- 第3回 (2) 集団と個人
 - 3. 準拠集団とモデル＝ライバル
- 第4回 4. ジヤニーズ・ファンの自発的集団
- 第5回 (3) 文化と価値
 - 5. 聖なる天蓋
- 第6回 6. 年中行事化するロック・フェス
- 第7回 (4) システムと生活世界
 - 7. ハーバーマス・ルーマン論争
- 第8回 8. Perfumeの哀しみ
- 第9回 (5) 自殺と社会：デュルケームの社会学
 - 9. 集合意識とアノミー
- 第10回 10. 「リア充」と希望の格差
- 第11回 (6) 宗教と資本主義：ヴェーバーの社会学
 - 11. 世俗内的禁欲
- 第12回 12. ヒップホップの正統性
- 第13回 (7) 自由からの逃走
 - 13. 権威主義的性格と他者指向型
- 第14回 14. コンサートにおけるノリの学習
- 第15回 (8) 潜在的機能と予言の自己実現
 - 15. 行為の意図せざる結果
- 第16回 16. 「それでも宇宙人はいる」
- 第17回 (9) 場面と体面
 - 17. 印象操作と相互作用儀礼
- 第18回 18. タモリと違背実験
- 第19回 (10) 変容する家族
 - 19. 核家族化と「子供の誕生」
- 第20回 20. 愛の成就とコンフルエント・ラブ
- 第21回 (11) 都市の人間関係
 - 21. ストレンジャー・インタラクション
- 第22回 22. まなごしの地獄／まなごされない地獄
- 第23回 (12) 階層移動と学歴
 - 23. ハビトゥスと文化的再生産
- 第24回 24. ワーキングクラス・ヒーローへの道
- 第25回 (13) 逸脱と社会変動
 - 25. 不満のアノミーと不安のアノミー
- 第26回 26. ウッドストックと我らの世代
- 第27回 (14) 社会病理現象
 - 27. ダブル・バインドとレイベリング
- 第28回 28. オタクと多元的現実

【成績評価の方法】

試験 44% レポート 56%
詳細は初回の授業時にアナウンスする。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学基礎講義 03 <春集>	
大 倉 季 久	4 単位

【講義概要】

この講義では、現代社会のマクロな変動を分析し、理解するための視点としての社会学的思考や方法について、「グローバル化」「消費社会」「資源問題」「科学技術とリスク」などをテーマに概説していく。とくに今日、地域生活の中で人びとが経験している変化や、それに対して立ち上がった具体的な取り組みを、社会学の視点から意味づけ、現代社会のマクロな変動と結びつける作業を通して、社会学的な思考や着眼点、分析の特色について明らかにする。

【学習目標】

現代社会が経験しているマクロな社会変動とわれわれの日常生活とのかかわりを理解するとともに、現代社会の成り立ちを読み解く視点としての社会学の特色を知り、われわれが日々、ほかならぬ「社会」の中を生活しているということを具体的に認識していくこと、そしてそれを通して「社会」を洞察する視点を獲得していくことをめざす。

【講義計画】

- 第1回 インTRODクダクシヨン (1回)
 第2回 [I 現代社会と社会学]
 1. グローバル化の中の現代社会 (2回)
 第3回 1. グローバル化の中の現代社会 (2回)
 第4回 2. 消費社会の諸相 (2回)
 第5回 2. 消費社会の諸相 (2回)
 第6回 3. 浮上する環境・資源問題 (2回)
 第7回 3. 浮上する環境・資源問題 (2回)
 第8回 4. 科学技術とリスク (2回)
 第9回 4. 科学技術とリスク (2回)
 第10回 5. まとめとミニテスト (1回)
 第11回 [II 社会学の視線]
 1. 個人と社会 (2回)
 第12回 1. 個人と社会 (2回)
 第13回 2. 社会的ジレンマ (2回)
 第14回 2. 社会的ジレンマ (2回)
 第15回 3. 信頼という視点 (2回)
 第16回 3. 信頼という視点 (2回)
 第17回 4. まとめとミニテスト (1回)
 第18回 [III 社会を生きる]
 1. 社会的ジレンマとしての環境問題 (2回)
 第19回 1. 社会的ジレンマとしての環境問題 (2回)
 第20回 2. 日本の地域社会：成り立ちと現状 (2回)
 第21回 2. 日本の地域社会：成り立ちと現状 (2回)
 第22回 3. 地域社会が直面する<限界>の諸相 (2回)
 第23回 3. 地域社会が直面する<限界>の諸相 (2回)
 第24回 4. 社会運動の捉え方 (1回)
 第25回 5. 日常生活の中のグローバリゼーション (1回)
 第26回 6. まとめとミニテスト (1回)
 第27回 [IV 全体のまとめ]
 1. 社会を知る：社会調査への招待 (1回)
 第28回 2. 全体のまとめ (1回)

【成績評価の方法】

適宜実施するミニテスト (30%) と最終試験 (70%) によって評価する。

【教科書】

テキストは使用しない。毎回配付する講義資料をもとに講義を行う。

【参考文献】

西沢晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』有斐閣 (2008年)

科目名 クラス 講義区分	
社会学基礎講義 04 <春集>	
石 田 あゆう	4 単位

【講義概要】

教科書は、NHK放送文化研究所が過去30年にわたって実施してきた大規模世論調査「日本人の意識」調査の結果に基づいてまとめられたものである。同書に掲載された1973年の初回調査から5年ごとに蓄積されたデータをはじめ、視聴率調査、映像記録などの資料に沿って、日本人の意識と日本社会の変容を捉えていく。

【学習目標】

現代社会の問題を「社会学」の観点から分析してみよう。何よりも現在の世の中、社会への関心を持つこと、持てるようになることを目標とする。具体的には、メディア、家族、世代という3つのキーワードをもとに、それぞれのテーマにおいて指摘されている現代社会の問題とは何かを理解する。現代社会の特徴は、簡単には理解できないその複雑性によるが、自分なりにそうした社会を「読み解く」ことができるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会学
 第2回 現代日本の世代について
 第3回 「団塊世代」はどう変わったか
 第4回 「若者」とは何者か
 第5回 若者と仕事(1)
 第6回 若者と仕事(2)
 第7回 個人化とメディア化
 第8回 婚活の時代
 第9回 近代家族論(1)
 第10回 近代家族論(2)
 第11回 一家団欒とメディア
 第12回 マスメディアにおけるジェンダー表象の変遷
 第13回 「若い女性」の時代
 第14回 日常生活と政治との新たな接点
 第15回 メディア変動と世論過程(1)
 第16回 メディア変動と世論過程(2)
 第17回 テレビを理解する
 第18回 スポーツとメディア(1)
 第19回 スポーツとメディア(2)
 第20回 メディア・イベントとは何か
 第21回 メディア・イベントとしてのオリンピック
 第22回 近代教育システムの特徴
 第23回 教育問題のとらえ方
 第24回 「いじめ」問題の見方
 第25回 現代の学力低下問題
 第26回 「放送教育」の時代
 第27回 日本人の意識の未来(1)
 第28回 日本人の意識の未来(2)

【成績評価の方法】

試験 35% レポート 60% 出席 5%
 詳しくは第一回講義で告知する。受講者は出席すること。出席点はあまり重視しない。だが、試験を実施するうえ、課題提出も多いのでそのつもりで受講すること。

【教科書】

NHK放送文化研究所 編 現代社会とメディア・家族・世代 新曜社

【参考文献】

適宜紹介する。

学
行

科目名 クラス 講義区分	
社会学基礎講義 05 <秋集>	
竹内真澄	4単位

【講義概要】

社会学の視点や基礎概念を使って、近・現代社会の仕組み、成り立ちやその変化を考える。それとともに人間的な現象の偉大さ、愚かさ、面白さについて皆さんと一緒に考えていきたい。

【学習目標】

いままで見えなかったところが見えるようになったり、いままで無問題としか見えなかった事柄が実は重大な問題をはらんでいると思えるようになったり、驚嘆できたり、それまでは気付くことのなかった価値や反価値に自己をむすびつけることができるようになること、つまりは社会学的説明力、診断力を身につけていくことを目標にする。

【講義計画】

- 第1回 社会学基礎講義序論
- 第2回 社会のなかの個人、個人のなかの社会
- 第3回 福沢諭吉と近代社会
- 第4回 夏目漱石と近代社会
- 第5回 階級と市民
- 第6回 労働力の商品化
- 第7回 学校の二つの機能
- 第8回 <男性・女性>と社会
- 第9回 <社会と国家>という近代の構造
- 第10回 社会に法則はあるか
- 第11回 中流社会と格差社会
- 第12回 医療の市場化をどう考えるか
- 第13回 家族を考える
- 第14回 市場を考える
- 第15回 国家を考える
- 第16回 資本主義と社会問題
- 第17回 社会問題の歴史的展開と環境問題
- 第18回 人権の拡張と資本主義社会の発展
- 第19回 アメリカをどう見るか
- 第20回 <いやいやながらの福祉国家>アメリカ
- 第21回 アメリカ<帝国>の貧困
- 第22回 ヨーロッパをどう見るか
- 第23回 北欧的豊かさの歴史的形成
- 第24回 北欧福祉国家と男女平等
- 第25回 戦後日本社会の3つの可能性
- 第26回 日本の企業中心社会の形成
- 第27回 日本の新自由主義
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 10% 出席 20%

【参考文献】

- 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫
- 夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫
- 阿部謹也『日本人の歴史意識』岩波新書
- 高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫
- カール・マルクス『資本論』岩波文庫
- T・H・マーシャル『シティズンシップと社会的階級』法律文化社
- 水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波文庫
- 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
- 竹内章郎『哲学塾 新自由主義の嘘』岩波書店
- 渡辺雅男『市民社会と福祉国家』昭和堂
- 竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
- 後藤道夫他『格差社会とたたかう』青木書店
- 堤未果『ルポ貧困大国アメリカ』岩波新書
- 宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書

科目名 クラス 講義区分	
社会学原論 <春集>	
宮本孝二	4単位

【講義概要】

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会学理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

【学習目標】

社会学は専門分化が高度化し、個別の分野では大量の知識が生産されているが、それを学ぶだけでは、個別具体的な知識を超えた一般化する力や、部分的な特殊な知識を全体的な視野でまとめあげたり適切に位置づけたりする力は修得困難である。この講義の学習目標は、個別具体的な部分的な特殊な現象を超えて、あらゆる現象に見出せる一般的な概念とその体系、そしてあらゆる現象を包括している全体的な視点について学ぶことによって、まさに一般化する力と全体的化する力を獲得するところにある。

【講義計画】

- 第1回 社会学原論とは何か：社会学理論の全体像
- 第2回 人間の特性(1)意味づけ
- 第3回 人間の特性(2)資源動員
- 第4回 社会の形成(1)動物群れから人間社会へ
- 第5回 社会の形成(2)国家の形成、伝統的国家、近代化
- 第6回 社会学理論における相互行為論の位置
- 第7回 コミュニケーションの社会学理論(1)
- 第8回 コミュニケーションの社会学理論(2)
- 第9回 サンクションの社会学理論(1)
- 第10回 サンクションの社会学理論(2)
- 第11回 エクスチェンジの社会学理論(1)
- 第12回 エクスチェンジの社会学理論(2)
- 第13回 コンフリクトの社会学理論(1)
- 第14回 コンフリクトの社会学理論(2)
- 第15回 構造という視点
- 第16回 構造主義とポスト構造主義
- 第17回 国民国家の構造とエリート論
- 第18回 階級・階層構造と変動
- 第19回 場と全体
- 第20回 近代化と現代社会論
- 第21回 戦後日本社会と現代社会論
- 第22回 1970年代以降の世界(1)
- 第23回 1970年代以降の世界(2)
- 第24回 近代の社会学理論家たち(1)
- 第25回 近代の社会学理論家たち(2)
- 第26回 現代の社会学理論家たち(1)
- 第27回 現代の社会学理論家たち(2)
- 第28回 まとめと補足(1)
- 第29回 まとめと補足(2)
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）によって評価する。

【教科書】

宮本孝二 社会学理論25講 八千代出版

【参考文献】

- 宮本孝二『ギデンズの社会学理論』（1998年、八千代出版）
- 新陸人編『現代社会学理論のあゆみ』（2006年、有斐閣）

【備考】

<02~09生>の【SS生】は学科選択科目として履修可
<02~08生>の【E・SW・B・L・J生】は共通自由科目として履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会学史 <秋集>	
竹内 真澄	4単位

【講義概要】

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を<市民社会>に焦点を当てて分析する学問である。社会学は、19世紀の中ごろに、18世紀思想が直面したのとは違った社会的現実と直面し、これを自覚することから生まれ、広がった。社会学は、それ以来、世界資本主義の先端部分の新しい社会問題に対処するために次々にかたちを変えていった。社会学という学問が、古典近代、自由放任的資本主義、国家介入的資本主義、そして多国籍企業的資本主義の各段階に応じて何を問題としてうけとめながら現在に至ったかを検討する。

【学習目標】

一般的に言えば、人間の抱く観念は彼／彼女を取り巻く社会状況の変化に従って変貌する。このことは、当然、社会学者たちについても妥当する。近代社会の発展の諸段階に応じて、社会学者の抱く学説が変貌していく軌跡を理解することが目標となる。

【講義計画】

- 第1回 社会学史の課題と方法・・・世界資本主義とのかかわりで
- 第2回 古典近代の社会認識の三つの立場・・・スミス・ルソー・カント
- 第3回 自己調整的な市民社会の発見・・・社会科学への道を切り開いたスミス
- 第4回 A・コントの社会学の基本構造・・・支配思想の革新
- 第5回 コントが社会学の創始者だということの意味
- 第6回 自由主義的資本主義の擁護・・・ネオ・リベラリズムの先駆者H・スペンサー
- 第7回 自由放任的資本主義の終焉・・・スペンサーの反時代的挑戦
- 第8回 近代ブルジョア社会批判の論理・・・K・マルクスの社会理論①
- 第9回 資本主義における搾取と開発・・・マルクスの社会理論②
- 第10回 資本主義と人間の再生産・・・マルクスの社会理論③
- 第11回 未来社会と<個人>・・・マルクスの社会理論④
- 第12回 福沢諭吉と日本近代化
- 第13回 L・T・ホブハウスと<社会的自由主義>の社会学
- 第14回 生存競争から市民的生存へ・・・L・T・ホブハウスの社会学
- 第15回 E・デュルケム社会学における自由放任的資本主義からの離脱
- 第16回 <交換者>から<結社人間>へ・・・デュルケム社会学と中間集団論
- 第17回 M・ウェーバー社会学と3つの現代社会像
- 第18回 M・ウェーバー理解社会学と国家介入的資本主義の兆候
- 第19回 福祉国家とM・ウェーバー
- 第20回 戦時日本への抵抗と「市民社会」概念・・・丸山眞男と大塚久雄
- 第21回 ファシズム批判と戦後世界・・・フランクフルト学派の社会心理学
- 第22回 シティズンシップと福祉国家・・・T・H・マーシャル
- 第23回 公共圏と福祉国家・・・J・ハーバーマスの社会学的課題設定
- 第24回 コミュニケーションの行為論と福祉国家のゆくえ・・・ハーバーマスの現代像
- 第25回 福祉国家と脱商品化・・・G・エスピノー＝アンデルセン
- 第26回 南北問題と近代世界システム・・・I・ウォーラステイン
- 第27回 ネオ・リベラリズムの社会学・・・N・ルーマンと世界資本主義の再編成
- 第28回 現代社会学の展望
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 90% レポート 10%

【参考文献】

T・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社
 J・ハーバーマス『コミュニケーションの行為の理論』未来社
 内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書
 アクセル・ホネット、竹内他訳『正義の他者』法政大学出版局
 ハワード・ジン、竹内訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講－格差社会を理論的に読み解く <春>	
藤田 悟	2単位

【講義概要】

近年、日本において格差社会化が急激に進行しつつある。特に2008年の後半から、論壇だけでなくマスコミ報道などでも大きな話題となった。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進める論理を学ぶとともに、格差社会に抗する思想・論理を皆と探っていきたい。

【学習目標】

「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的な（根本的な）問いに正面から向き合えるようになってほしい。また、「格差社会」について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してもらえればありがたいと思う。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 格差社会の現状Ⅰ
- 第3回 格差社会の現状Ⅱ
- 第4回 「格差」とは何だろうかⅠ
- 第5回 「格差」とは何だろうかⅡ
- 第6回 「貧困」とは何だろうかⅠ
- 第7回 「貧困」とは何だろうかⅡ
- 第8回 格差社会を支える思想Ⅰ
- 第9回 格差社会を支える思想Ⅱ
- 第10回 どう読み解くか——市民社会・大衆社会・格差社会
- 第11回 「市民」と「非市民」
- 第12回 どう批判するか——自由・自立・自己責任
- 第13回 様々な対抗運動
- 第14回 まとめ——格差社会を越える道

【成績評価の方法】

基本的にレポートで評価するが、出席を加味する場合もある。

【教科書】

講義中にレジュメ・資料を配布する。

さ
行

科目名	クラス	講義区分
社会学特講-釜ヶ崎と人権 <秋>		
原 口	剛	2単位

【講義概要】

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。

講義のテーマは、以下のとおりである。

- ①「釜ヶ崎労働者の労働と生活」では、釜ヶ崎において日雇労働者がどのような労働にたざざわり、またどのような日常生活を営んでいるのかを考える。
- ②「釜ヶ崎の歴史」では、近現代の釜ヶ崎の歴史を紐解きながら、なぜ釜ヶ崎という場所に簡易宿所（どや）が立地するようになったのか、なぜ釜ヶ崎が単身男性日雇労働者のまちになったのか、といったテーマについて学ぶ。
- ③「釜ヶ崎・野宿の現在」では、1990年代から現在まで、釜ヶ崎がどのように変わったのか（変えられたのか）、そして野宿生活者に対してどのような政策がとり行われているのか、といったテーマについて学ぶ。
- ④「ホームレスとは誰か」では、①～③で学んだことを踏まえて、「フリーター」「ネットカフェ難民」「ワーキングプア」など、近年社会問題として注目されつつある新たな貧困をどのように捉え、向き合うことができるのかを考える。
- ⑤最後に講義全体のまとめとして、釜ヶ崎の視点から日本の経済・社会システムの問題点を捉えなおし、社会的排除を食い止めるための道筋を考えていきたい。

【学習目標】

本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生きているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 釜ヶ崎労働者の労働と生活①
- 第3回 釜ヶ崎労働者の労働と生活②
- 第4回 釜ヶ崎の歴史①：木賃宿街の成立
- 第5回 釜ヶ崎の歴史②：高度経済成長と釜ヶ崎
- 第6回 釜ヶ崎の歴史③：万博と釜ヶ崎
- 第7回 釜ヶ崎・野宿の現在①：労働市場からの排除
- 第8回 釜ヶ崎・野宿の現在②：自立支援施策の展開と問題点
- 第9回 釜ヶ崎・野宿の現在③：イベントと野宿者排除
- 第10回 釜ヶ崎・野宿の現在④：まちづくりと社会的包摂
- 第11回 ホームレスとは誰か①：フリーターを考える
- 第12回 ホームレスとは誰か②：ネットカフェ難民を考える
- 第13回 ホームレスとは誰か③：ワーキング・プアを考える
- 第14回 講義のまとめ①
- 第15回 講義のまとめ②

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%

科目名	クラス	講義区分
社会学特講-キャリアカウンセリング入門 <通期>		
西 川	桜 子	4単位

【講義概要】

職業により、毎日の生活の仕方、人間関係、生活環境、時には余暇活動などの仕事以外の活動まで異なります。ですから、職業選択は生き方の選択でもあります。本科目では、“キャリア”を職業や職歴だけでなく、家庭内での仕事、地域・ボランティア活動、趣味活動なども含めた幅広い概念としてとらえ、個人の特性を活かした職業や生き方の選択を支援する“キャリア カウンセリング”の基礎を解説します。

【学習目標】

受講生の皆さんが、キャリア カウンセリングの歴史、(代表的)理論、基本的なプロセス(進め方)、テクニック(技巧)、コミュニケーションスキル、人生設計・職業選択における人間の多様性や人権に関する問題について理解することを目標とします。本科目でキャリアの選択に影響する様々な要因について学習することは、受講生の皆さんが自分自身を見つめなおし、自己理解を深め、将来の職業や生活全般について考える良い機会にもなります。

【講義計画】

- 第1回 授業計画、課題、評価方法の説明
キャリアカウンセリングとは？
- 第2回 ”キャリア“が意味すること キャリアカウンセリングとは？
キャリア カウンセリングの歴史
- 第3回 キャリアカウンセリングの必要性・ニーズ
キャリア カウンセリングの理論 I
— 特性因子(Trait-and-Factor)理論
A Needs Approach
- 第4回 キャリア カウンセリングの理論 II
— 発達学的(Developmental)理論
- 第5回 キャリア カウンセリングの理論 III
— 類型学的(Typology)理論
- 第6回 キャリアカウンセリングの理論 IV
— 社会学習(Social Learning)理論
- 第7回 キャリア カウンセリングのプロセス(進め方)
キャリアインタビューレポート(課題)の説明
- 第8回 第1ステップ 現状把握・自己分析 “Who am I?”
セルフ アセスメント I — 興味、性格、& 態度
- 第9回 セルフ アセスメント II — 価値観、動機、& 使命感
- 第10回 セルフアセスメント III — 技術・技能 & 能力
- 第11回 セルフ アセスメント IV — 役割
キャリアジェノグラム(家系図)
- 第12回 セルフ アセスメント V — キャリアの壁
- 第13回 復習、春学期末試験の説明
- 第14回 春学期末試験
- 第15回 秋学期の授業計画、課題、評価方法の説明
キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル I
— コミュニケーションのレベル
非言語要素(姿勢、目線、身振り、手振り、表情、声、身体スペース、癖など)(nonverbals)
- 第16回 キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル II
— 感情反映(reflection of feelings)
- 第17回 “自分についてを話す・自己を語る”ことの意味
キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル III
— 言い換え(reflection of contents)
まとめ(summarization)
- 第18回 キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル IV
— 質問(questioning / probing)
矛盾提示(challenging / confrontation)
解釈(interpretation)
- 第19回 キャリアカウンセリングのコミュニケーションスキル V
— 情報提供(presentation of information)
自己開示(self-disclosure)
抵抗するクライアントの理解と対処方法
- 第20回 第2ステップ 目標設定 “Where am I going?”
- 第21回 第3ステップ 目標達成 “How do I get there?”
フォローアップ — キャリアカウンセリングの評価と関係の終了
- 第22回 キャリアカウンセラーに求められるもの
キャリアカウンセリングの関連資格

- 第23回 多様性と人権
偏見・差別と“特権”
これらの事柄が、キャリアプランに与える影響
- 第24回 偏見・差別のメカニズム
職業差別と就職差別
- 第25回 性という視点からとらえたキャリアカウンセリング
(女性に特有の問題など)
- 第26回 性という視点からとらえたキャリアカウンセリング
(男性に特有の問題など)
- 第27回 復習、秋学期末試験の説明
- 第28回 秋学期末試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 25% 出席 25%
 キャリア インタビュー レポート (25%)
 春学期末試験 (25%)
 秋学期末試験 (25%)
 授業出席・参加状況 (25%)

【教科書】

宮城まり子 キャリアカウンセリング 21世紀カウンセリング叢書
 駿河台出版社
 その他、毎週プリントを授業中に配布します。

【参考文献】

『カウンセリング テクニック入門』(大谷彰著)
 (有)二瓶社 (ISBN: 4-86108-011-8)

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講 - 経済社会学への招待 <春>	
大 倉 季 久	2 単 位

【講義概要】

この講義では、1980年代後半以降、アメリカを中心に発展してきた「新しい経済社会学」の潮流をもとに、経済現象を社会的に捉える視点と方法について概説する。とくに市場メカニズムの現代的な成り立ちに焦点を据えて、経済現象を考察する視点としての「埋め込みアプローチ」の特色について議論していく。経済活動が直面している現実に立脚して人びとの経済行動の変化や、それによって引き起こされる問題の構造的な背景を解明する視点としての「新しい経済社会学」の視点を知ることにより、日ごろ見聞きしているさまざまな経済現象について、慣れきった見方を再考する機会となればと思っている。

【学習目標】

経済現象を捉える基本的な視点として「埋め込みアプローチ」の特徴を理解すること、および「埋め込みアプローチ」を通して今日的な経済現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会的に認識すること。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション：経済行動をめぐる人間像
- 第2回 経済社会学とは何か(1)：経済学と経済社会学
- 第3回 経済社会学とは何か(2)：「埋め込みアプローチ」の展開と「新しい経済社会学」の視点
- 第4回 市場メカニズムの捉え方(1)：市場の中のネットワーク
- 第5回 市場メカニズムの捉え方(2)：資本主義の歴史的文脈－ウェーバーの理論
- 第6回 市場メカニズムの捉え方(3)：市場の再定義
- 第7回 市場メカニズムの捉え方(4)：企業の秩序としての「業界」
- 第8回 「市場原理主義」とは何か
- 第9回 グローバル市場経済で何が起きているのか(1)：ネットワークをめぐる変化の諸相
- 第10回 グローバル市場経済で何が起きているのか(2)：ローカル・マーケットの衰退
- 第11回 エコロジーの経済社会学(1)：資源問題と現代社会
- 第12回 エコロジーの経済社会学(2)：森林問題をめぐって
- 第13回 市場メカニズムの限界をどう捉えるか
- 第14回 まとめ：「埋め込みアプローチ」の現代的可能性

【成績評価の方法】

学期末試験(80%)と講義内容に関するリアクション・ペーパー(20%)によって評価する。詳細は第1回の授業時に指示する。

【教科書】

毎回配布するプリント、資料をもとに講義を行う。

【参考文献】

・渡辺深『経済社会学のすすめ』八千代出版(2002年)。
 ・マーク・グラノヴェター「経済行為と社会構造：埋め込みの問題」渡辺深訳『転職：ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房(1998年)所収。
 そのほか、適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講－死生観の社会心理学 <通期>	
渡 部 美穂子	4単位

【講義概要】

私たちが日常生活で死について深く考えることはあまりない。その一方で、初等教育の現場でも「命の大切さ」を取り上げる必要性がかまびすしく議論されるほど、青少年による凶悪犯罪やいじめ、自殺問題は深刻であり、さらには脳死臓器移植、終末期医療など、死に関わる社会問題は現代における重要なテーマのひとつである。

【学習目標】

この講義では、受講生のみなさんに「自分自身の死」だけでなく、「近い大切な他者の死」の問題について考えてもらうことを通して、少子高齢化が進む現代社会が抱えるさまざまな問題についての考察をも深めてもらうことを目的としている。そのため、ドキュメンタリー映像などを用いて死に直面する家族などの姿に接して、その内容についてのグループ討議にも参加してもらう。週に一度、真剣に死について思いをはせる、自分の意見を他者に伝えて討論する、ということを通して、自身の死生観について熟考していただきたい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業内容の説明など）
現代における死の問題
- 第2回 突然の死とグリーフ・ケア(1)
- 第3回 突然の死とグリーフ・ケア(2)
- 第4回 突然の死とグリーフ・ケア(3)
- 第5回 悲嘆の心理(1)
- 第6回 悲嘆の心理(2)
- 第7回 グループ討議
- 第8回 がんの告知問題(1)
- 第9回 がんの告知問題(2)
- 第10回 死の受容過程(1)
- 第11回 死の受容過程(2)
- 第12回 グループ討議
- 第13回 ホスピス・ケア(1)
- 第14回 ホスピス・ケア(2)
- 第15回 試験実施せず(レポート課題あり)
- 第16回 脳死臓器移植問題(1)
- 第17回 脳死臓器移植問題(2)
- 第18回 脳死臓器移植問題(3)
- 第19回 グループ討議
- 第20回 日本人の死生観・遺体観
- 第21回 日本人の宗教性・来世観
- 第22回 自殺について(1)
- 第23回 自殺について(2)
- 第24回 自殺について(3)
- 第25回 グループ討議
- 第26回 高齢者の心理(1)
- 第27回 高齢者の心理(2)
- 第28回 自己と他者の死への態度(1)
- 第29回 自己と他者の死への態度(2)
- 第30回 試験(予定)

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%
ほぼ毎回、小テストや講義内容に関する記述報告をしてもらうことで、出席を確認するとともに、真摯に授業に取り組んでいるかを評価して、それを出席点とする。また、テーマ内容に沿った参考文献を読んで少なくとも1度はレポートを作成してもらう予定である(詳細は講義中に説明する)。
深刻なテーマであることから、私語などで他の受講生に迷惑をかける行為には厳正に対応する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講－情報社会論 <秋集>	
木 島 由 昌	4単位

【講義概要】

正確には近年、ICTs (Information and Communication Technologies) と呼ばれる、情報通信の技術と社会とのかかわりを多面的に考察していく。

【学習目標】

情報通信技術の恩恵にあずからない人はまずいないだろう。アプリカの片田舎にもケータイ電話が普及している昨今である。しかもそれはほんの短い時間に達成されてきたから、私たちはついつい、何かものすごい「革命」が立て続けに起こっているのだと期待してしまう。しかし、それで一喜一憂しているようでは学生として心もとない。そこでこの授業では、すぐに判断をくだしたくなる気持ちをぐっとこらえ、まずは現象をじっくりと眺める「観照」の姿勢を滋養したい。新しいものがすぐに古びてみえるこの世の中で、落ちていて考える力を育むこと。それはもちろん、時流に流されずに生きていく力を育むことでもある。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 1. インターネットは社会を変えない
- 第2回 (I) ケータイ電話と人間関係
- 2. インティメイト・ストレンジャー
- 第3回 3. 友だちの「足し算」と「引き算」
- 第4回 4. 人間関係という「資本」
- 第5回 (II) ウェブ日記とセルフ・アイデンティティ
- 5. エゴ・キャスティング
- 第6回 6. 「私」という阿修羅
- 第7回 7. つながりの社会性
- 第8回 (III) 検索エンジンと情報収集
- 8. アテンション・エコノミー
- 第9回 9. 欲望の先取り
- 第10回 10. ライフスタイル・ショッピング
- 第11回 (IV) テレビゲームと身体
- 11. 擬似環境を操作する
- 第12回 12. フローと即応の快楽
- 第13回 13. 「世界」の再構造化
- 第14回 intermission
- 14. 同期と非同期のコミュニケーション
- 第15回 15. リアリティの偽装
- 第16回 (V) iPodとオリジナルティ
- 16. アウラとデジタル化
- 第17回 17. 「作品」の拡張／「作者」の拡散
- 第18回 18. シェアリング・エコノミーと著作権
- 第19回 (VI) 複製技術と創造性
- 19. 物語消費とデータベース消費
- 第20回 20. 二次創作とシミュラクル
- 第21回 21. 「萌え」と擬人化
- 第22回 (VII) 時間と空間の変容
- 22. 個人の時間と社会の時間
- 第23回 23. 「没場所性」の拡大
- 第24回 24. 社会空間のメディア的編成
- 第25回 (VII) セキュリティと合理性
- 25. 個人情報をばら撒く
- 第26回 26. 監視社会と体感治安
- 第27回 27. 電子マネーと計算の合理
- 第28回 おわりに
- 28. インターネットの「長い誕生日」

【成績評価の方法】

試験 44% レポート 56%
詳細は初回の授業時にアナウンスする。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講-日本映画Ⅰ <春>	
Raoul Cervantes	2単位

【講義概要】

In this class we will study how Japanese young people and the culture of Japanese youth have been created in Japanese film. This class IS TAUGHT IN ENGLISH ONLY. All movies will have English subtitles. Students are expected to discuss the films and themes in English.

【学習目標】

The goals of this course are to (1) learn how Japanese youth have been depicted in film, (2) learn about major Japanese directors and their methods, and (3) be able to talk about films and culture.

【講義計画】

- 第1回 Course introduction.
- 第2回 Japanese youth and innocence
- 第3回 Japanese youth and innocence
- 第4回 Japanese youth and innocence
- 第5回 Japanese youth and innocence
- 第6回 Japanese youth and their dreams
- 第7回 Japanese youth and their dreams
- 第8回 Japanese youth and their dreams
- 第9回 Japanese youth and their dreams
- 第10回 Japanese youth in the age of confusion
- 第11回 Japanese youth in the age of confusion
- 第12回 Japanese youth in the age of confusion
- 第13回 Japanese youth in the age of confusion
- 第14回 Japanese youth in the age of confusion
- 第15回 Japanese youth in the age of confusion

【成績評価の方法】

試験 40% 出席 60%

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講-日本映画Ⅱ <秋>	
Raoul Cervantes	2単位

【講義概要】

In this class we will study how Japanese adult culture and society has been created in Japanese film. This class IS TAUGHT IN ENGLISH ONLY. All movies will have English subtitles. Students are expected to discuss the films and themes in English.

【学習目標】

The goals of this course are to (1) learn how Japanese adult culture and society has been depicted in film, (2) learn about major Japanese directors and their methods, and (3) be able to talk about films and culture.

【講義計画】

- 第1回 Course introduction
- 第2回 Individuals and society
- 第3回 Individuals and society
- 第4回 Individuals and society
- 第5回 Individuals and society
- 第6回 Individuals and society
- 第7回 The Japanese family
- 第8回 The Japanese family
- 第9回 The Japanese family
- 第10回 The Japanese family
- 第11回 Japanese social groups
- 第12回 Japanese social groups
- 第13回 Japanese social groups
- 第14回 Japanese social groups
- 第15回 Japanese social groups

【成績評価の方法】

試験 40% 出席 60%

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
社会学特講－日本人の悩みの変遷 <秋>	
池田 知 加	2単位

【講義概要】

この講義は、新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。それは、幸せになりたい、今のこの現状をどうにか変えたいという願いを、社会とつなげて考えてみるということです。

【学習目標】

「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解することを前提にします。そして、人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解することを目標にします。つまり、個別的な事例から、普遍的な何かをとりだしてみること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考を身につけてほしいと思います。

【講義計画】

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 資料への視点①自己開示コミュニケーション
- 第3回 資料への視点②説得コミュニケーション
- 第4回 資料への視点③相互作用としてのコミュニケーション
- 第5回 女性の悩みの変遷①女性にとっての「家庭」
- 第6回 女性の悩みの変遷②「家庭」と「愛情」の意味変容
- 第7回 男性の悩みの変遷①男性にとっての「仕事」
- 第8回 男性の悩みの変遷②「家庭」と「仕事」のはざま
- 第9回 若者の悩みの変遷①人生目標の変化
- 第10回 若者の悩みの変遷②個性主義の教育
- 第11回 自己決定主義の現在
- 第12回 個人化と意味喪失
- 第13回 人生問題を語る空間
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0%
 期末試験で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。また、授業中に提出するミニレポートを書くことが授業内容の理解につながります。

【教科書】

池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある?』光文社新書

【参考文献】

授業で紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
社会科・公民科教育法 01 <通期>	
飯島 敏文	4単位

【講義概要】

社会科という教科の成立とその後の展開を概観しながら、社会科や公民科という教科の本質を特に教育課程の意義と特徴の面から明らかにする。包括的理論的な問題を具体的な授業実践と重ねて考察をすすめることで、社会科・公民科の教育課程編成の方法に関する理解を深め、真に公民的資質の形成に資することができるような社会科授業・公民科授業を構想し実践する能力へと導く。

<受講予定の方へ>

本講義は通年の講義ですが、主として前期には中学校社会科に関する内容を扱い、後期に高等学校公民科に関する内容を扱うことを予定しています。通年にわたり、社会科及び公民科という教科の教育課程の意義と特徴をよく理解し、その理解に基づいた教育課程編成のあり方を考えます。

前期は、昭和22年の社会科成立期から今日に至るまでの社会科を概観し、とくに成立期社会科におけるカリキュラム構成と授業実践について考察します。現代の社会科授業実践を考えるために有効な視点を可能な限り具体的な形で紹介することによって、授業を実践するとはいかなることであるかを解説します。後期は、高等学校公民科の特徴と公民科に含まれる諸科目の特徴とその実践的課題について解説します。

前期・後期ともに受講生の皆さんが社会科授業及び公民科授業の学習指導計画を作成することができ、授業実践ができるような能力を身につけられるよう手ほどきをいたします。常に社会の姿を「授業」のレベルで考えることができるような視点を提供していく予定です。なお、コンピュータ教室を活用し新しいメディアに親しむとともに、それを授業実践構想に生かしていくことを重視しています。また、下記講義内容に該当する学習指導案の作成、模擬授業の実施も必須内容と位置づけています。

【学習目標】

社会科・公民科の教育課程の意義と特徴を正しく理解し、教育課程編成の方法についての本質的理解を踏まえて、社会科・公民科の学習指導計画の立案と授業の実践ができるようになる。社会科・公民科教育課程の意義を反映した学習目標の設定、生徒理解、教材解釈と学習内容構成、学習活動の組織、及び正しい教育評価ができるような能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）
- 第2回 社会科教育課程の意義の概説
- 第3回 社会科教育課程の意義 1—学習指導要領から読み取ることができる社会科の特徴
- 第4回 社会科教育課程の意義 2—社会科の理論的枠組みと主要な社会科プラン
- 第5回 社会科教育課程の意義 3—社会科理論の実践への翻訳
- 第6回 社会科教育課程の意義 4—成立から現在までの社会科教育課程の変遷
- 第7回 社会科教育課程編成の方法の概観
- 第8回 社会科教育課程編成の方法 1—社会科教育課程の意義を反映した社会科教育計画（前）
- 第9回 社会科教育課程編成の方法 2—社会科教育課程の意義を反映した社会科教育計画（後）
- 第10回 社会科教育課程編成の方法 3—教材の選択及び学習活動の構想
- 第11回 社会科教育課程編成の方法 4—学習指導案への具現化
- 第12回 社会科授業分析の理論
- 第13回 社会科授業分析のケーススタディ
- 第14回 公民的資質の概念
- 第15回 公民的資質の基礎を育てる社会科指導構想
- 第16回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）
- 第17回 公民科教育課程の意義の概説
- 第18回 公民科教育課程の意義 1—中学校社会科及び高等学校公民科との関係
- 第19回 公民科教育課程の意義 2—学習指導要領の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
- 第20回 公民科教育課程の意義 3—公民科の理論と公民科諸科目の学習指導との関係
- 第21回 公民科教育課程編成の方法の概観

- 第22回 公民科教育課程編成の方法1—公民科教育課程の意義を反映した教育計画の立案
- 第23回 公民科教育課程編成の方法2—生徒及び地域・学校の実態を反映した公民科教育課程編成の方法
- 第24回 公民科教育課程編成の方法3—教材の選択及び学習活動の構想
- 第25回 公民科教育課程編成の方法4—学習指導案への具現化
- 第26回 現代社会の目標及び内容構成と学習指導計画
- 第27回 政治経済の目標及び内容構成と学習指導計画
- 第28回 倫理の目標及び内容構成と学習指導計画
- 第29回 学習指導案の具体的事例
- 第30回 公民としての資質を育てる公民科授業の要件

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%
 出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。(前期・後期共レポート試験があります)

【教科書】

テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。
 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
 『中学校学習指導要領解説 社会編』
 『高等学校学習指導要領解説 公民編』

【参考文献】

講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしません。

科目名 クラス 講義区分	
社会科・公民科教育法 02 <通期>	
大 野 順 子	4 単 位

【講義概要】

本講義では、社会科・公民科教育がもつそれぞれの教育課程における意義と特徴を理解するため、授業計画に記載した内容に関連する文献やテキスト、リサーチペーパーなどを多数読んでいく。受講生はグループ（各グループ4名程度）に分かれ、毎時間課題として挙げた資料や文献について要約し、グループごとに授業で発表する。また授業実践・運営能力を身につけるためにも社会科・公民科学習指導案の作成や模擬授業等の実施も行う。
 以上より、受講生には毎時講義への主体的参加や貢献が求められるため、遅刻や欠席に対しては授業運営上、また所属グループに対しても多大なる迷惑がかかるため厳しく指導する。本講義履修希望の学生にはこの点をよく理解していただきたい。
 ただし、1年後には社会科教員としての相当の見識や資質、「力」がつくものと考えている。

【学習目標】

現在、子どもたちのなかでは社会と関わる力が弱体化し、社会問題への関心が希薄化している状況にあるといわれている。そうしたなか、子どもたちの社会参加や社会認識を高め、社会問題に対する関心を促す教育課程として、社会科・公民科教育が位置づけられている。ここでは、その社会科教育、及び、公民科教育設立の歴史的経緯をふりかえり、その意義と特徴、重要性を正しく理解しながら、社会科・公民科のカリキュラムの立案と授業実践が行え、正しい教育評価ができる資質と能力を身につけた教師の育成を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中学校教育課程の意義について
- 第3回 社会科教育課程の意義1—日本社会科の設立理念とその変遷
- 第4回 社会科教育課程の意義2—学習指導要領等の記述から読み取る社会科の理論的枠組み
- 第5回 社会科教育課程の意義3—社会科諸理論を反映した社会科授業の構想
- 第6回 社会科教育課程の意義4—社会認識教育としての社会科のあり方
- 第7回 中学校教育課程編成の方法について
- 第8回 社会科教育課程編成の方法1—社会科教育課程の意義を活かした社会科教育カリキュラム
- 第9回 社会科教育課程編成の方法2—地域社会を活用した社会科教育の実践
- 第10回 社会科教育課程編成の方法3—社会科における教材の選択及び学習活動の構想
- 第11回 社会科教育課程編成の方法4—海外事例との比較研究
- 第12回 模擬授業1
- 第13回 模擬授業2
- 第14回 模擬授業3
- 第15回 まとめ
- 第16回 オリエンテーション
- 第17回 高等学校教育課程の意義について
- 第18回 公民科教育課程の意義1—高校公民科：その設立過程と地理歴史科との関係
- 第19回 公民科教育課程の意義2—学習指導要領等の記述から読み取る公民科の理論的枠組み
- 第20回 公民科教育課程の意義3—公民科教育に求められる主要なパースペクティブ
- 第21回 公民科教育課程の意義4—公民的資質・市民的資質の育成
- 第22回 高等学校教育課程編成の方法について
- 第23回 公民科教育課程編成の方法1—公民科教育課程の意義を反映したカリキュラムの立案
- 第24回 公民科教育課程編成の方法2—地域社会を活用した公民科教育の実践
- 第25回 公民科教育課程編成の方法3—公民科における教材の選択及び学習活動の構想
- 第26回 公民科教育課程編成の方法4—海外事例との比較研究
- 第27回 模擬授業1
- 第28回 模擬授業2
- 第29回 模擬授業3
- 第30回 まとめ

さ
行

【成績評価の方法】

出席状況（重視、原則遅刻は欠席とみなす）、レポート・課題の提出（期日厳守、期日外提出は原則受け付けない）、授業への参加・貢献度（重視）、期末試験等により総合的に評価する。

※学習指導案の作成、及び模擬授業の実践も成績評価の一部になります。

※現在、小中高等学校において学習支援ボランティアやスクールサポーターとして活動中の人に関しては成績評価に加点します。

【教科書】

『学習指導要領（中学校編、高等学校編）』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

『中学校学習指導要領解説 社会編』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

『高等学校学習指導要領解説 公民編』

テキストは特に指定しませんが、上記図書は授業理解を深めるためにも各自準備すること。

【参考文献】

その都度準備します。

科目名 クラス 講義区分

社会科・地歴科教育法 01 <通期>

山崎 充彦

4単位

【講義概要】

地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始するとええられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらう。

開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、原則として、毎回一人に模擬授業を行ってもらう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料（教科書その他のコピーなど）を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。
＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。
→次回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。
5. 当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを当日ないし、翌週に提出する。

【学習目標】

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、「模擬授業を中心とした演習形式」とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じであろう。その点、留意の上、登録履修されたい。

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

【講義計画】

- 第1回 はじめに ー授業運営の方針説明
- 第2回 模擬授業についての具体的な説明（講義案作成の方法など）
模擬授業担当日程の割り振り（じゃんけん、くじ引きなどで担当日を決める）
- 第3回 教育関係のビデオ上映
- 第4回 模擬授業
- 第5回 模擬授業
- 第6回 模擬授業
- 第7回 模擬授業
- 第8回 模擬授業
- 第9回 模擬授業
- 第10回 模擬授業
- 第11回 模擬授業
- 第12回 模擬授業
- 第13回 模擬授業
- 第14回 模擬授業
- 第15回 模擬授業

- 第16回 模擬授業
- 第17回 模擬授業
- 第18回 模擬授業
- 第19回 模擬授業
- 第20回 模擬授業
- 第21回 模擬授業
- 第22回 模擬授業
- 第23回 模擬授業
- 第24回 模擬授業
- 第25回 模擬授業
- 第26回 模擬授業
- 第27回 模擬授業
- 第28回 模擬授業
- 第29回 模擬授業
- 第30回 模擬授業

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%
 毎回、模擬授業についてのコメントを書いた簡単なレポートを提出してもらおう。それを以て、出席調査とする。

成績評価は、模擬授業・レポート内容・出席回数で、総合的に評価する。

なお、模擬授業担当日に、正当な理由なく、無断欠席した者は、その時点で、「不可」と判定する。

科目名 クラス 講義区分

社会科・地歴科教育法 02 <秋集>

野 尻 亘

4単位

【講義概要】

- ①教育課程の意義と編成方法：生きる力を育てる学力を如何に達成するのか。そのために教育課程を如何に編成するのか。その基礎基本を修得する。
- ②中学社会科と高校地理歴史科の教育法：これらの教科教育の計画、内容と方法に関する基礎基本を修得する。

【学習目標】

中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法および、教科の特色をふまえた指導法について講義するとともに、実際に学生が授業指導案を作成し、それにもとづいて模擬授業を実践する。また、それらを参観した学生全員で討論を行う。

【講義計画】

- 第1回 生きる力と新学力観
- 第2回 教育課程の意義と編成方法
- 第3回 学校における教科教育
- 第4回 社会科の目標
- 第5回 社会科の目標における公民的資質とは何か
- 第6回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第7回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第8回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第9回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第10回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第11回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第12回 地理歴史科の目標
- 第13回 高校地理のカリキュラム構成と内容(1)
- 第14回 高校地理のカリキュラム構成と内容(2)
- 第15回 高校日本史のカリキュラム構成と内容(1)
- 第16回 高校日本史のカリキュラム構成と内容(2)
- 第17回 高校世界史のカリキュラム構成と内容(1)
- 第18回 高校世界史のカリキュラム構成と内容(2)
- 第19回 授業の構成(1)
- 第20回 授業の構成(2)
- 第21回 授業指導方法(1)
- 第22回 授業指導方法(2)
- 第23回 授業指導案の作成(1)
- 第24回 授業指導案の作成(2)
- 第25回 模擬授業の実践と講評反省会(1)
- 第26回 模擬授業の実践と講評反省会(2)
- 第27回 成績評価の方法
- 第28回 社会科・地理歴史科と人権学習
- 第29回 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育の課題
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートして提出すること。またこの提出した指導案をもとに履修者全員が授業時間中に模擬授業を行うこと。これらの平常点でもって、成績を評価し、単位認定の条件とする。

【教科書】

文部科学省 中学校学習指導要領解説 社会編 日本文教出版
 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 実教出版

【参考文献】

井原政純『社会科・地歴科・公民科基礎論』多賀出版
 永井滋郎・平田嘉三『社会科需要用語300の基礎知識』明治図書

さ
行

科目名	クラス	講義区分			
社会学科基礎演習	[2]	01 <春>	巖本	圭介	介
社会学科基礎演習	[2]	02 <春>	間田	栄男	男
社会学科基礎演習	[2]	03 <春>	石田	あゆ	男
社会学科基礎演習	[2]	04 <春>	北川	紀	男
社会学科基礎演習	[2]	05 <春>	北川	紀	男
社会学科基礎演習	[2]	06 <春>	北川	紀	男
社会学科基礎演習	[2]	07 <春>	清水	由文	放
社会学科基礎演習	[2]	08 <春>	清水	由文	文
社会学科基礎演習	[2]	09 <春>	清水	由文	久
社会学科基礎演習	[2]	10 <春>	清水	由文	男
社会学科基礎演習	[2]	11 <春>	清水	由文	昌
社会学科基礎演習	[2]	12 <春>	清水	由文	昌
社会学科基礎演習	[2]	13 <春>	清水	由文	考
社会学科基礎演習	[2]	14 <春>	清水	由文	あ
2単位					

その他適宜指示する

【参考文献】
適宜指示する

【備考】
* 授業項目の回数を調整したり、順序を入れ替えたりする場合があります。

【講義概要】

この科目は、これから社会学科で学んでいこうとする一回生のために開かれる、少人数クラスのゼミナールです。
大学で「学ぶこと」は、高校までの「勉強」とは違います。一言で言えば、大学では、主体的、能動的に学ぶ必要が格段に強化されます。そこでこの演習では、皆さんが社会学科で学んでいくにあたって身につけてほしいさまざまな力を豊かにするために、“見る・読む・聞く・考える・書く・話す”の基礎的トレーニングを意識的におこないます。

【学習目標】

<学習目標>

1. <テーマの発見>：社会的現実に関心を持ち、現実の中に問題を発見する力をつけよう。
2. <情報収集>：必要な情報を探し収集する方法を学ぼう。単行本、雑誌、新聞などの活字メディアだけでなく、映像・音声メディア、さらには現場、現地における参与観察、インタビューやインターネットなど使って、効率よく情報を探索し、入手する方法を学ぼう。
3. <情報解説>：収集された多種多様な情報を解説しよう。本、新聞・雑誌、映像・音声メディアなどから収集した情報の正確な見方、読み方、聞き方を中心に観察の仕方、体験の反省の仕方について学ぼう。
4. <現実の再構成>：解説された情報を使って、社会がどのような諸要素や諸次元から成り立っているか、論理的に考え、再構成してみよう。さまざまなテーマに関するレジュメやレポートを書き、添削指導をうけることによって、現実を再構成する力をつけよう。
5. <コミュニケーション力の展開>：作成したレジュメやレポートをもとに、プレゼンテーションの仕方を学び、口頭報告や討論をつうじてアイデアをさらに豊かにするコミュニケーション力を高めよう。

*全回出席を原則とする

【講義計画】

- 第1回 演習の概略説明と自己紹介
- 第2回 社会的現実に関心をもとう
- 第3回 社会的現実からテーマを発見しよう
- 第4回 講義ノートの上手なとりかたを知ろう
- 第5回 情報収集について学ぼう
- 第6回 図書館の上手な使い方を知ろう
- 第7回 情報を解説してみよう
- 第8回 本を読むークリティカル・リーディングの手法を練習してみよう
- 第9回 レジュメ（要約）を書いてみよう
- 第10回 みんなの前で発表してみよう
- 第11回 報告を聞いて討論してみよう
- 第12回 レポートの書き方について
- 第13回 レポートを作成してみよう
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

出席点（30%）、授業における活動状況（20%）、レジュメなどの提出物（20%）、レポート（30%）

【教科書】

佐藤望[編著]『アカデミック・スキルズー大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 01 <春>	
大野 順子	2単位

【講義概要】

多文化共生、多文化教育等に関する文献（テキストを中心に）を読み、各回担当者（1～数名担当）がその内容を要約・発表し、残りの時間を利用して受講生全員で文献内容に関連した課題・テーマについてディスカッションを行うことを毎時間の基本スタイルとします。扱う文献についてはテキストが基本ですがその都度指示します。

その他としては講義の進捗状況により近隣学校へのフィールドワークや参加型ワークショップなどの活動も積極的に取り入れ、理論と実践の面から多文化共生社会のあり方について考えていきます。

【学習目標】

世界的な人口移動のグローバル化に伴う民族的多文化化や価値観の多様化などの影響により、日本社会もオールドカマーやニューカマーの人々などを中心に多文化・多民族国家として発展し続けている。こうした社会状況の変化のなか、特に教育現場では外国籍児童生徒に関わる諸問題が各自治体で浮上してきている。本講義ではこうした現状を見つめ、教育現場における共生概念の実現を目指すなかでの課題等について明らかにする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション 「多文化教育」とは何か
- 第2回 『多文化教育—新しい時代の学校づくり』（Banks, James A.）要約／発表とディスカッション
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 「多文化共生」に関するワークショップ／ゲストスピーカー（例：学内の多文化的バックグラウンドを持つ学生から話を聞く）
- 第9回 『民主主義と多文化教育』（Banks, James A.）要約／発表とディスカッション
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ 「多文化主義」について

【成績評価の方法】

1. 出席（コメントカードへの記入）
2. 授業への貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加）
3. 課題・レポートの提出（締切厳守）
4. 期末試験（予定）

以上により、総合的に評価します。

【教科書】

ジェームス・A・バンクス『多文化教育—新しい時代の学校づくり』サイマル出版会
 本テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。
 ジェームス・A・バンクス『民主主義と多文化教育』明石書店
 本テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。
 Banks, James A. Diversity And Citizenship Education -Global Perspectives Jossey-Bass
 本テキストは購入する必要はありません。こちらで準備します。

【参考文献】

その都度準備します。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 02 <春>	
捧 堅 二	2単位

【講義概要】

「伝統的社会」と「近代社会」について検討するなかで、マックス・ヴェーバーを中心に社会学の基本的概念を学ぶ。映画などの映像を利用してできるだけ、分かりやすくやりたいが、それでもかなり難しい内容になるだろう。

★学習意欲を持った学生の受講をのぞむ。

（友だちと一緒にこの授業でも取ろうか、映画が見られるので楽そうだという感じこの科目を選択してもらっては困る）

【学習目標】

ヴェーバー社会学の基本的概念のいくつかを理解し、さらなる社会学の勉強の基礎を築いてもらう

【講義計画】

- 第1回 社会学、そして時代劇と時代小説（たとえば、藤沢周平『たそがれ清兵衛』新潮文庫）
- 第2回 映画『七人の侍』（黒沢明監督）鑑賞（前半）
- 第3回 ——伝統的社会と近代社会（1）
- 第4回 TVドラマ『風の果てに』（藤沢周平原作）鑑賞（一部）
- 第5回 ——伝統的社会と近代社会（2）
- 第6回 「ゲマインシャフト関係」と「ゲゼルシャフト関係」
- 第7回 近代化と村落共同体
- 第8回 映画『屋根の上のバイオリン弾き』鑑賞
- 第9回 日本と中国の近代化の比較
- 第10回 ヴェーバーの社会的行為論（目的合理的行為・価値合理的行為など）
- 第11回 「赤穂浪士討ち入り」を考える
- 第12回 ——関連映像鑑賞
- 第13回 ヴェーバーの「支配の社会学」「カリスマ」とは何か
- 第14回 映画『阿部一族』（森鷗外原作、岩波文庫ほか）を見る
- 第15回 映画『拝啓天皇陛下様』（棟田博原作、光人社NF文庫）を見る

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%
 レポートを重視する。
 数行のミニ・レポートを数回。
 A4一枚程度のレポートを1回。
 （盗用・盗作などの不正行為があれば、ただちに失格・不合格とする）。
 レポート合格者のみ簡単な筆記試験をする。

病気などの特別な事情がない限り、毎回出席すること。

【教科書】

使用しない

【参考文献】

安藤英治『マックス・ヴェーバー』講談社学術文庫
 羽入辰郎『マックス・ヴェーバーの哀しみ』PHP新書
 富永健一『マックス・ヴェーバーとアジアの近代化』講談社学術文庫
 藤沢周平『風の果て』上下、文春文庫

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 03 <秋>	
清水 夏樹	2単位

【講義概要】

高度消費社会化と高度情報化とをほぼ同時に遂げて以後の日本社会における〈宗教〉をめぐる状況の再定義を試みる。伝統的な仏教信仰、固有の民俗宗教、明治以来の旧来型の新宗教に至る歴史軸をふまえ、80年代以降の新々宗教といわれるものへの射程の中で、とくに若い世代が宗教および宗教的なものに魅かれ易い社会的メンタリティを考えてみる。そのさい、現代音楽、アニメドラマ、ゲームソフト等、サブカルチャーの動向とその同時代的背景に配慮し、それらが宗教的メンタリティと共振し反映しあう関係を省察したい。

【学習目標】

近・現代社会における宗教および宗教的なもの—オリジナルな宗教信仰に代わるもの—をどうとらえるべきか。宗教そのものの周辺—外縁情況から、ひろく宗教文化を育んできた過去（の社会）と近未来への射程に耐えうるもの—の見方、考え方を養ってほしい

【講義計画】

- 第1回 6-70年代 宗教と社会 モラトリアム
- 第2回 80年代 高度消費化とサブカルチャーの底流
- 第3回 新宗教—新々宗教、ブームとしての宗教、スピリチュアリズム
- 第4回 バブル期前後—おおいなる空白期、〈しらけ〉から〈おたく〉へ
- 第5回 ゲームソフトの開発とアニメ文化
- 第6回 アニメ作品にみる神話・伝承世界、その現代的よみ替え
- 第7回 〈鎮め〉の文化装置、〈癒し〉系、青年世代の文化と価値フレーム、「聖」「俗」「遊」から擬似宗教性を考える
- 第8回 前半期の整理・総括
- 第9回 パーチャル空間と宗教的世界—オカルト・神秘志向、カリスマ願望
- 第10回 '90-'00年、自分さがしⅠ アイデンティティの漂流 終りなき旅
- 第11回 自分さがしⅡ 前項およびセルフリアレンスからみた「ポップシーン」
- 第12回 「物語り」化—つくり手のテーマとモチーフ、世界に羽ばたくアニメ、ゲームソフト
- 第13回 〈セカイ〉系の生成、諸々のイメージ世界の発信源としてのメディア
- 第14回 “時間”の縮減と縮約—パーチャルリアリティの極致
- 第15回 全講の整序・総括

【成績評価の方法】

レポートを主要な評価対象とする。その上で数回に及ぶ簡易レポート、出席状況、受講態度（発言、発表内容等）を加味して評点する

【教科書】

高橋勇悦・藤村正之 編著『青年文化の聖・俗・遊』恒星社・厚生閣出版

【参考文献】

「青年文化の聖・俗・遊」（厚生 出版）ほか

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 04 <春> 社会学科文献演習 [2] 10 <秋>	
畠中 宗一	2単位

【講義概要】

家族現象や社会病理現象を社会システムと家族システム、家族システムとそのサブシステムの交差領域のせめぎ合いの産物として認識し、その背景を理解する基本的なテキストを読みながら、討論を積み重ね、自己の社会学的認識を深める。

【学習目標】

文献演習は、文献の読解力、研究上のアイデアやヒント、社会的想像力などを獲得することがその目標である。
富裕化社会における複数の命題群のなかで、「富裕化が関係性や繋がりを喪失させるように機能している」側面について、関連する文献を読むことによって、この命題に関する考察を深める。

【講義計画】

第1回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
レポート

【教科書】

柳田邦男 壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別 新潮文庫
前期使用
荒井千暎 職場はなぜ壊れるのか ちくま新書
後期使用

【参考文献】

演習の進行に応じて、適宜、文献を紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 05 <春>	
山内 乾史	2単位

【講義概要】

本講義では、現代の社会学的問題中、若者と教育に関する文献を中心に購読します。特に今年度は社会の階層化と教育、若者文化の二つテーマに基づき文献を講読します。

【学習目標】

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なものの見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

【講義計画】

- 第1回 インTRODakション—講義の概要説明・割り当て決定・レジュメの書き方の指導—
- 第2回 若者の教育と文化に関する概説
- 第3回 第1文献講読(1)
- 第4回 第1文献講読(2)
- 第5回 第1文献講読(3)
- 第6回 第1文献講読(4)
- 第7回 第2文献講読(1)
- 第8回 第2文献講読(2)
- 第9回 第2文献講読(3)
- 第10回 第2文献講読(4)
- 第11回 第3文献講読(1)
- 第12回 第3文献講読(2)
- 第13回 第3文献講読(3)
- 第14回 第3文献講読(4)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 0% 出席 100%
発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。試験やレポートは課しません。

【教科書】

三浦展 格差社会のサバイバル術 学習研究社
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。
三浦展 平成女子図鑑 中央公論新社
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。
山野良一 子どもの最貧国・日本 光文社
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 06 <春>	
渡部 美穂子	2単位

【講義概要】

社会心理学では、私たちの身近に起こる問題が数多く取り上げられている。研究者たちは、自分が日常生活の中で感じる疑問からヒントを得て先行研究にあたり、研究テーマを深化させてゆくのである。受講生のみなさんには、研究者の卵としておもに文献検索と情報収集について学び、あわせて他の受講生にもその情報を共有してもらえようプレゼンテーションを行ってもらおう。

【学習目標】

自らの関心に沿った情報を収集し、先行研究をひもとくこと、それを他の受講生にわかりやすく説明するためにはどのようにすればよいのか、について学ぶことがこの演習の目標である。また、受講生が互いに評価しあうことによって、より深くプレゼンテーションの問題点を理解してもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション(1)
- 第2回 情報収集について(1)
- 第3回 情報収集について(2)
- 第4回 文献検索について
- 第5回 レジュメ作成について
- 第6回 プレゼンテーションについて
- 第7回 プレゼンテーションと評価(1)
- 第8回 プレゼンテーションと評価(2)
- 第9回 プレゼンテーションと評価(3)
- 第10回 プレゼンテーションと評価(4)
- 第11回 プレゼンテーションと評価(5)
- 第12回 プレゼンテーションと評価(6)
- 第13回 プレゼンテーションと評価(7)
- 第14回 プレゼンテーションと評価(8)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 07 <秋>	
大野 順子	2単位

【講義概要】

現代社会が抱えている様々な教育問題を取り上げ、それぞれの問題の本質について学びます。授業形態としては毎時、取り上げる教育問題についてまとめ（書籍等の場合は要約し）、発表する担当者を決め、発表後、受講生全員で取り上げたテーマにディスカッションを行うことを基本スタイルとします。扱う文献についてはテキストが基本ですがその都度指示する予定です。その他としては講義の進捗状況により近隣学校へのフィールドワークや参加型ワークショップなどの活動も積極的に取り入れ、理論と実践の面から多文化共生社会のあり方について考えていきます。特に、将来、教職や教育関係に進みたい方に受講してほしいと考えています。

【学習目標】

教育現場を取り巻いている諸問題について理解し、これからの教育の目指すべき方向性、あり方について考えていく視点を育成します。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
※履修希望者は本登録前であっても必ず出席すること。
- 第2回 学校教育現場の現状
- 第3回 学ぶとは何か①（テキスト『被抑圧者の教育学』より）
- 第4回 学ぶとは何か②（テキスト『被抑圧者の教育学』を参考に）
- 第5回 学ぶとは何か③（テキスト『被抑圧者の教育学』より）
- 第6回 現代教育問題Ⅰ（隠れたカリキュラム：ジェンダー他）
- 第7回 現代教育問題Ⅱ（教師の多忙感）
- 第8回 現代教育問題Ⅲ（不登校、いじめ、ニート）
- 第9回 現代教育問題Ⅳ（公教育のあり方）
- 第10回 現代教育問題Ⅴ（子どもたちの学びのあり方①）
- 第11回 現代教育問題Ⅵ（子どもたちの学びのあり方②）
- 第12回 学力低下論争（国際調査から）
- 第13回 学力低下論争（学力格差）
- 第14回 学力低下論争（改善策について）
- 第15回 まとめ（予備日）

【成績評価の方法】

1. 出席（コメントカードへの記入）
2. 授業への貢献度
（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加）
3. 課題・レポートの提出（締切厳守）
4. 期末試験（予定）

以上により、総合的に評価します。

【教科書】

パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』 亜紀書房
 本著の購入準備については第一回目の授業（オリエンテーション）で指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 08 <秋>	
捧 堅 二	2単位

【講義概要】

現代アメリカ社会の諸問題を検討するなかで、マックス・ヴェーバーを中心に社会学の基本的概念を学ぶ。映画など映像も利用してできるだけ、分かりやすくやりたいが、やや難しい内容になるかもしれない。
 ★学習意欲を持った学生の受講をのぞむ。
 （友だちと一緒にこの授業でも取ろうかという感じでは困る）

【学習目標】

ヴェーバーの基本的概念のいくつかを理解し、さらなる社会学の勉強の基礎を築いてもらう。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 オバマ大統領とは
- 第3回 「コミュニティ・オーガナイザー」（NPO活動）から大統領へ
- 第4回 「カリスマ」と「デマゴグ」（ヴェーバー「支配の社会学」）
- 第5回 市民社会とアソシエーション（トックヴィルとヴェーバー）
- 第6回 アメリカにおける貧困
- 第7回 民主党と共和党
- 第8回 「NPO大国」アメリカ
- 第9回 アメリカにおける黒人差別
- 第10回 映画『ミシシッピー・バーニング』
- 第11回 （承前）
- 第12回 「威信感情」（ヴェーバー）と「優越感情」（フクヤマ）
- 第13回 アメリカにおける銃問題——アメリカ史と民間武装の伝統
- 第14回 映画『ポーリング・フォ・コロムバイン』
- 第15回 （承前）

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%
 レポートを重視する。
 数行のミニ・レポートを数回。
 A4一枚程度のレポートを1回。
 （ただし盗用・盗作などの不正行為があれば、失格・不合格とする）。
 レポート合格者のみ最後に1度筆記試験をする。

病気などの特別な事情がない限り、毎回出席すること。
 （欠席の際には、事前もしくは事後に理由を説明してもらう）

【教科書】

使用しない

【参考文献】

安藤英治『マックス・ヴェーバー』講談社学術文庫、2003年
 ヴェーバー『職業としての政治』岩波文庫、1980年
 小熊英二『市民と武装』慶應義塾大学出版会、2004年
 フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』（上下）三笠書房、1992年